

注3

大学番号：私155

[平成29年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

福井医療大学

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人新田塚学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 シム シツチョウ イワナガ カズヤ
事務室長 岩永 和也

電話番号 0776-59-2200

（夜間） 0776-59-2200

F A X 0776-59-2205

e-mail fcm-soumu@kki.biglobe.ne.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健医療学部

＜リハビリテーション学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	16
3. 施設・設備の整備状況、経費	31
4. 既設大学等の状況	32
5. 教員組織の状況	33
6. 附帯事項等に対する履行状況等	51
7. その他全般的事項	53

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	59
2. 授業科目の概要	63
3. 施設・設備の整備状況、経費	73
4. 既設大学等の状況	74
5. 教員組織の状況	75
6. 附帯事項等に対する履行状況等	87
7. その他全般的事項	90

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人新田塚学園

(2) 大 学 名

福井医療大学

(3) 大学の位置

〒910-3190

福井県福井市江上町55字鳥町13番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ハヤシ セイガク) 林 正岳 (平成17年4月1日)	—	
学 長	(ヤマグチ アキオ) 山口 明夫 (平成29年4月1日)	—	
学 部 長	(ホリ ヒデアキ) 堀 秀昭 (平成29年4月1日)	—	
学科長等	(フジモト アキラ) 藤本 昭 (平成29年4月1日)	(イシダ ケイジ) 石田 圭二 (平成29年4月1日)	選任のため平成29年4月1日変更(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 リハビリテーション学科 学士(理学療法) 学士(作業療法) 学士(言語聴覚)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	120人	- 年次人	480人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	120人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	120人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	120人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	0.85倍	- 倍	
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	257 (-) [-]	- (-) [-]	188 (-) [-]	- (-) [-]	176 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	251 (-) [-]	- (-) [-]	178 (-) [-]	- (-) [-]	171 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	211 (-) [-]	- (-) [-]	159 (-) [-]	- (-) [-]	162 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	102 (-) [-]	- (-) [-]	102 (-) [-]	- (-) [-]	103 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	-		-		0.85		0.85		0.85				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	101	-	103	-	105	-			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(2)	(-)			
2 年次			-	-	-	-	93	-	107	-			
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(8)	(-)			
3 年次					-	-	-	-	83	-			
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-			
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	101	-	196	-	295	-			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(10)	(-)			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
平成28年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
平成29年度	102 人	3 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(2人)、学力不足(1人)
平成30年度	201 人	9 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	7 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(3人)、就職(2人)、 就学意欲の低下(2人)
			平成30年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(2人)
令和元年度	295 人	0 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		12 人		12 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{102} = \boxed{2.94} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{9}{201} = \boxed{4.47} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{295} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 学士(理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4 年	50 人	- 年次 人	200 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	50人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	50人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	50人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	1.07倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	120 (—) [—]	— (—) [—]	104 (—) [—]	— (—) [—]	92 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	115 (—) [—]	— (—) [—]	97 (—) [—]	— (—) [—]	87 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	86 (—) [—]	— (—) [—]	82 (—) [—]	— (—) [—]	82 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	53 (—) [—]	— (—) [—]	54 (—) [—]	— (—) [—]	54 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B / A	—		—		1.06		1.08		1.08				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	53	-	55	-	55	-	-	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	()	(-)	(1)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	47	-	55	-	-	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	44	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	53	-	102	-	154	-	-	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(4)	(-)	(-)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
平成28年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
平成29年度	53 人	2 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)、学力不足(1人)
平成30年度	105 人	5 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)、就職(1人)、 就学意欲の低下(1人)
			平成30年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(2人)
令和元年度	154 人	0 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		7 人		7 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{53} = \boxed{3.77} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{105} = \boxed{4.76} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{154} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 学士(作業療法学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	40人	- 年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	40人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	0.72倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	75 (—) [—]	— (—) [—]	48 (—) [—]	— (—) [—]	49 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	74 (—) [—]	— (—) [—]	45 (—) [—]	— (—) [—]	49 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	67 (—) [—]	— (—) [—]	43 (—) [—]	— (—) [—]	48 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	31 (—) [—]	— (—) [—]	28 (—) [—]	— (—) [—]	28 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B / A	—		—		0.77		0.70		0.70				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	30	-	28	-	29	-			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	28	-	31	-			
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(4)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	23	-			
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-			
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	30	-	56	-	83	-			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(5)	(-)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
平成28年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
平成29年度	31 人	1 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	1 人	0 人	就職(1人)
平成30年度	58 人	3 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)、就職(1人) 就学意欲の低下(1人)
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	83 人	0 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		4 人		4 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{31} = \boxed{3.22} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{58} = \boxed{5.17} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{83} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 学士(言語聴覚学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	30人	- 年次人	120人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	30人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	30人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	30人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	0.65倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	62 (—) [—]	— (—) [—]	36 (—) [—]	— (—) [—]	35 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	62 (—) [—]	— (—) [—]	36 (—) [—]	— (—) [—]	35 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	58 (—) [—]	— (—) [—]	34 (—) [—]	— (—) [—]	32 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	18 (—) [—]	— (—) [—]	20 (—) [—]	— (—) [—]	21 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B / A	—		—		0.60		0.66		0.70				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成２７年度		平成２８年度		平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	18 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	20 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	21 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
２年次			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	18 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	21 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
３年次					－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	16 [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
４年次							－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
計			－ [ー] (ー)				－ [ー] (ー)		18 [ー] (ー)		38 [ー] (ー)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
平成28年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
平成29年度	18 人	0 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
平成30年度	38 人	1 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	58 人	0 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- | | | | |
|-----------------|----------------|----------------|-------|
| (記入項目例)・就学意欲の低下 | ・学力不足 | ・他の教育機関への入学・転学 | ・海外留学 |
| ・就職 | ・学生個人の心身に関する事情 | ・家庭の事情 | ・除籍 |
| | | | ・その他 |

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{38} = \boxed{2.63} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{58} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
一般 教育 科 目	安全学	3前		2		1					
	教育学	1前		2							1
	統計学	2後		2		1					
	情報科学	2前		2		1					
	情報処理	3前		2				1			
	物理学	1前		2		1					
	生物学	1前	2								1
	人間工学	1後		2				1			
	文化人類学	2前		2							1
	哲学	2前		2							1
	人間関係論	2後		2							1
	心理学	1後		2							1
	家族心理学	2前		2							1
	生命倫理	1後	2								1
	倫理学	1前	2								1
	社会福祉学	1前		2							3
	ボランティア論	1通		2							1
	英語Ⅰ	1前・後	2				1	1			
	英語Ⅱ	2前・後	2				1	1			
	英語Ⅲ	2前・後		2			1	1			
	英語Ⅳ	3前		2			1	1			
	英会話	1前・後		2			1	1			
	フレッシュヤーズセミナーⅠ	1前	2				1				
	フレッシュヤーズセミナーⅡ	1前～後	2				3				2
	日本国憲法	1前		2							1
	体育	1前		2							1
	スポーツ医学Ⅰ	2前			2						3
	スポーツ医学Ⅱ	2前			2						2
	スポーツ社会経営学	4前			2						1
	コーチング論	3前			2						1
	競技者育成システム論	3後				1					1
	トレーニング科学Ⅰ	1前			2						1
	スポーツ栄養学Ⅰ	3前				1					1
	アスレティックトレーナーの役割	1前			2			1			
小計(34科目)	－										
専門 基 礎 科 目	解剖学総論	1前	2								1
	解剖学演習Ⅰ	1前		2		2					
	解剖学演習Ⅱ	1前		2		2			1		
	解剖学演習Ⅲ	1後		2		2					
	生理学	1前	2			1					
	生理学演習	1後		1		1					
	運動学	2前	2			1		1			
	運動学演習(バイオメカニクス)	2後		1		1	2	1	1		
	人間発達学	1後	2				1				
	臨床心理学	3前	2								1
	内科学Ⅰ	2前	1								1
	内科学Ⅱ	2前	1								1
	臨床神経学	1後	1								1
	臨床神経学演習	2前		1							1

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
一般 教育 科目	安全学	3前		2		1						
	教育学	1前		2								1
	統計学	2後		2		1						
	情報科学	2前		2		1						
	情報処理	3前		2				1				
	物理学	1前		2		1						
	生物学	1前	2									1
	人間工学	1後		2				1				
	文化人類学	2前		2								1
	哲学	2前		2								1
	人間関係論	2後		2								1
	心理学	1後		2								1
	家族心理学	2前		2								1
	生命倫理	1後	2									1
	倫理学	1前	2									1
	社会福祉学	1前		2								3
	ボランティア論	1通		2								1
	英語Ⅰ	1前・後	2				1	1				
	英語Ⅱ	2前・後	2				1	1				
	英語Ⅲ	2前・後		2			1	1				
	英語Ⅳ	3前		2			1	1				
	英会話	1前・後		2			1	1				
	フレッシュヤーズセ ミナーⅠ	1前	2				1					
	フレッシュヤーズセ ミナーⅡ	1前～後	2				3					2
	日本国憲法	1前		2								1
	体育	1前		2								1
	スポーツ医学Ⅰ	2前			2							4
	スポーツ医学Ⅱ	2前			2							6
	スポーツ社会経営 学	4前			2							1
	コーチング論	3前			2							1
	競技者育成システ ム論	3後			1							1
	トレーニング科学Ⅰ	1前			2							1
	スポーツ栄養学Ⅰ	3前			1							1
	アスレティック レーナーの役割	1前			2		1					
	小計(34科目)	-										
専門 基礎 科目	解剖学総論	1前	2									1
	解剖学演習Ⅰ	1前		2		1						
	解剖学演習Ⅱ	1前		2		1						
	解剖学演習Ⅲ	1後		2		2						
	生理学	1前	2			1						
	生理学演習	1後		1		1						
	運動学	2前	2			1		1				
	運動学演習(バイ オメカニクス)	2後		1		1	2	1	1			
	人間発達学	1後	2			1						
	臨床心理学	3前	2									1
	内科学Ⅰ	2前	1									1
	内科学Ⅱ	2前	1									1
	臨床神経学	1後	1				1					
	臨床神経学演習	2前		1			1					

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 基礎 科目	整形外科科学	1後	1								1
	スポーツ整形外科	1後		1							1
	精神医学	1後	1								1
	病理学	2前	1								1
	リハビリテーション 医学診断学	2前	1								1
	リハビリテーション 医学治療学	2前		1							1
	耳鼻咽喉科学	2前		1							1
	形成外科学	2後		1							1
	臨床歯科学	2前		1							1
	発声発語系医学	1後		1		1					
	神経系医学	1後		2							1
	聴覚系医学	1後		1							1
	リハビリテーション 概論	1前	1			1					
	保健医療論	1前		1		1					
	チーム医療論	3前	1								1
	薬理学	2前		1							1
	環境と健康	1前		1							1
	ナラティブ概論	3前		1			1				
	社会保障制度	4前		1		1					1
	スポーツ心理学	4前		1							1
	スポーツ内科学	2通		1							1
	救急処置	1後		1			1				
	トレーニング科学 Ⅱ	1後			1						1
	スポーツ栄養学Ⅱ	3後			1						1
	予防とコンディショ ニング	2後			3		1	1			
	アスレティックリハ ビリテーションⅠ	2前			1		1				
	アスレティックリハ ビリテーションⅡ	2後			1		1				
	現場実習Ⅰ(見学 実習)	1前			1		1	1			
	現場実習Ⅱ(評価 実習)	1後			1		1	1			
	現場実習Ⅲ(ス ポーツ現場実習)	2前			1		1	1			
	現場実習Ⅳ(アス レティックリハビリ テーション実習)	2後			1		1	1			
	現場実習Ⅴ(総合 実習)	3通			2		1	1			
	学習・認知心理学	3前		2							1
	心理測定法	2前		1							1
	言語学	1後		2		1	1				
	音声学	1前		2		1					
	音響学	1前		2				1			
	言語発達学	1後		1		1					
小計(52科目)		-									

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 基礎 科目	整形外科科学	1後	1								1
	スポーツ整形外科	1後		1							1
	精神医学	1後	1								1
	病理学	2前	1								1
	リハビリテーション 医学診断学	2前	1					1			
	リハビリテーション 医学治療学	2前		1				1			
	耳鼻咽喉科学	2前		1							1
	形成外科学	2後		1							1
	臨床歯科学	2前		1							1
	発声発語系医学	1後		1		1					
	神経系医学	1後		2				1			
	聴覚系医学	1後		1							1
	リハビリテーション 概論	1前	1			1					
	保健医療論	1前		1		1					
	チーム医療論	3前	1								1
	薬理学	2前		1							1
	環境と健康	1前		1							1
	ナラティブ概論	3前		1			1				
	社会保障制度	4前		1		1					1
	スポーツ心理学	4前		1							1
	スポーツ内科学	2通		1							1
	救急処置	1後		1			1				
	トレーニング科学 Ⅱ	1後			1						1
	スポーツ栄養学Ⅱ	3後			1						1
	予防とコンディショ ニング	2後			3		1	1			
	アスレティックリハ ビリテーションⅠ	2前			1		1				
	アスレティックリハ ビリテーションⅡ	2後			1			1			
	現場実習Ⅰ(見学 実習)	1前			1		1	2			
	現場実習Ⅱ(評価 実習)	1後			1		1	2			
	現場実習Ⅲ(ス ポーツ現場実習)	2前			1		1	2			
	現場実習Ⅳ(アス レティックリハビリ テーション実習)	2後			1		1	2			
	現場実習Ⅴ(総合 実習)	3通			2		1	2			
	学習・認知心理学	3前		2							1
	心理測定法	2前		1							1
	言語学	1後		2		1	1				
	音声学	1前		2		1					
	音響学	1前		2				1			
	言語発達学	1後		1		1					
小計(52科目)		-									

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（理学療法学）	理学療法概論	1前		1		1					
	基礎理学療法学	1前		1		1					
	理学療法基礎理論	2後		1				1			
	運動発達学	2後		1					1		1
	研究方法論	3前		1		1					
	研究方法論演習	3後		1		5	1	2			
	理学療法研究	4通		3		5	1	2			
	基礎理学療法評価学	1後		1		1					
	神経系検査法	2前		2		1					
	運動器系検査法Ⅰ（関節可動域測定）	2前		2				1			
	運動器系検査法Ⅱ（筋力測定）	2前		2				1			
	運動・動作分析学	2前		1		5	1	2			
	基礎運動治療技術学	2前		1			1				
	運動器系理学療法Ⅰ（骨折）	2後		1		1					
	運動器系理学療法Ⅱ（スポーツ外傷）	2後		1			1				
	運動器系理学療法Ⅲ（脊椎・関節障害）	2後		1				1			
	神経系理学療法学	3前		1		1					
	中枢神経系理学療法Ⅰ（脳血管障害評価）	2後		1		1			1		
	中枢神経系理学療法Ⅱ（脳血管障害治療）	3前		1		1			1		
	中枢神経系理学療法Ⅲ（ハート・失調症）	3前		1		1			1		
	発達障害系理学療法学	3前		1					1		1
	発達障害系理学療法学演習	4前		1					1		1
	内部障害系理学療法学	3前		2		1					2
	内部障害系理学療法学演習	4前		1		1			1		2
	理学療法評価治療演習	2後		2		5	1	2			
	物理療法学	3前		1		1					
	物理療法学演習	3前		1		1					
	日常生活活動評価学	2前		1		1					
	日常生活動作指導法	3前		1		1					
	義肢・装具学	3前		2		1					1
	義肢・装具学演習	4前		1		1			1		
	神経系理学療法治療技術	4前		1		1			1		
	運動器系治療技術Ⅰ（運動機能障害の評価と治療）	3前		1		1					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（理学療法学）	理学療法概論	1前		1		1					
	基礎理学療法学	1前		1		1					
	理学療法基礎理論	2後		1				1			
	運動発達学	2後		1					1		1
	研究方法論	3前		1		1					
	研究方法論演習	3後		1		5	1	4	3		
	理学療法研究	4通		3		5	1	4	3		
	基礎理学療法評価学	1後		1		1					
	神経系検査法	2前		2				1			
	運動器系検査法Ⅰ（関節可動域測定）	2前		2				1			
	運動器系検査法Ⅱ（筋力測定）	2前		2				1			
	運動・動作分析学	2前		1		5	1	4	3		
	基礎運動治療技術学	2前		1			1				
	運動器系理学療法Ⅰ（骨折）	2後		1				1			
	運動器系理学療法Ⅱ（スポーツ外傷）	2後		1			1				
	運動器系理学療法Ⅲ（脊椎・関節障害）	2後		1				1			
	神経系理学療法学	3前		1		1					
	中枢神経系理学療法Ⅰ（脳血管障害評価）	2後		1				2			
	中枢神経系理学療法Ⅱ（脳血管障害治療）	3前		1				2			
	中枢神経系理学療法Ⅲ（ハート・失調症）	3前		1				2			
	発達障害系理学療法学	3前		1					1		1
	発達障害系理学療法学演習	4前		1					1		
	内部障害系理学療法学	3前		2		1					2
	内部障害系理学療法学演習	4前		1		1			1		2
	理学療法評価治療演習	2後		2		5	1	4	3		
	物理療法学	3前		1		1					
	物理療法学演習	3前		1		1					
	日常生活活動評価学	2前		1		1					
	日常生活動作指導法	3前		1		1					
	義肢・装具学	3前		2		1					1
	義肢・装具学演習	4前		1		1		1			
	神経系理学療法治療技術	4前		1		1		1			
	運動器系治療技術Ⅰ（運動機能障害の評価と治療）	3前		1		1					

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（理学療法）	運動器系治療技術Ⅱ（徒手の理学療法）	4前		1		1					
	地域理学療法	3前		2		2					
	生活環境整備学	3前		2		1					
	臨床見学実習	1後		1		4	1	2	3		
	臨床評価実習	2後		3		5	1	2	3		
	臨床実習Ⅰ	3後		7		5	1	2	3		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		5	1	2	3		
専門科目（作業療法）	作業療法概論	1前		2			1				
	研究法	3前		2		1					
	研究法演習	3後		1		1	2	1	1		
	作業療法研究	4通		3		1	2	1	1		
	作業分析学	2前		2			1				
	作業技法（基礎）	2前		1					1		
	作業技法（編み物・陶芸）	2後		1					1		
	作業技法（革細工・藤細工）	2後		1				1			
	作業療法評価学	1前		2			1				
	身体機能評価演習Ⅰ	1後		2					1		
	身体機能評価演習Ⅱ	2前		2					1		
	心理社会機能評価演習Ⅰ	1後		2			1				
	心理社会機能評価演習Ⅱ	2前		2			1	1			
	作業治療学の基礎	4前		1			1				
	身体障害作業療法	2後		1			1				
	身体障害作業療法演習Ⅰ（脳血管障害・神経系疾患）	2後		2				1	1		
	身体障害作業療法演習Ⅱ（脊髄損傷・リウマチ）	3前		1				1	1		
	身体障害作業療法演習Ⅲ（骨折・切断・内部障害）	3前		1			1		1		
	精神障害作業療法	2前		1			1				
	精神障害作業療法演習Ⅰ（作業療法）	2後		1			1				
	精神障害作業療法演習Ⅱ（臨床関係論）	3前		1			1				
	発達障害作業療法	2後		1					1		1
	発達障害作業療法演習	3前		1					1		
	高次神経障害学	2後		1				1			
	老年期障害作業療法	2前		1			1				
	老年期障害作業療法演習	3前		1			1				

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（理学療法）	運動器系治療技術Ⅱ（徒手の理学療法）	4前		1		1					
	地域理学療法	3前		2		2					
	生活環境整備学	3前		2		1					
	臨床見学実習	1後		1		4	1	4	3		
	臨床評価実習	2後		3		5	1	4	3		
	臨床実習Ⅰ	3後		7		5	1	4	3		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		5	1	4	3		
専門科目（作業療法）	作業療法概論	1前		2			1				
	研究法	3前		2		1					
	研究法演習	3後		1		1	2	1	1		
	作業療法研究	4通		3		1	2	1	4		
	作業分析学	2前		2			1				
	作業技法（基礎）	2前		1					1		
	作業技法（編み物・陶芸）	2後		1					1		
	作業技法（革細工・藤細工）	2後		1					1		
	作業療法評価学	1前		2			1				
	身体機能評価演習Ⅰ	1後		2					1		
	身体機能評価演習Ⅱ	2前		2					1		
	心理社会機能評価演習Ⅰ	1後		2			1				
	心理社会機能評価演習Ⅱ	2前		2				1	1		
	作業治療学の基礎	4前		1			1				
	身体障害作業療法	2後		1			1				
	身体障害作業療法演習Ⅰ（脳血管障害・神経系疾患）	2後		2				1	1		
	身体障害作業療法演習Ⅱ（脊髄損傷・リウマチ）	3前		1				1	1		
	身体障害作業療法演習Ⅲ（骨折・切断・内部障害）	3前		1			1		1		
	精神障害作業療法	2前		1			1				
	精神障害作業療法演習Ⅰ（作業療法）	2後		1					1		
	精神障害作業療法演習Ⅱ（臨床関係論）	3前		1			1				
	発達障害作業療法	2後		1					1		1
	発達障害作業療法演習	3前		1					1		
	高次神経障害学	2後		1				1			
	老年期障害作業療法	2前		1			1				
	老年期障害作業療法演習	3前		1			1				

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（作業療法学）	日常生活活動	2前		1					1		
	日常生活活動演習	2後		1					1		
	作業療法演習	4後		2			1				
	作業療法評価実習	2後		2		1	2	1	2		
	作業療法治療実習Ⅰ	3前		2		1	2	1	2		
	作業療法治療実習Ⅱ	4前		1		1	2	1	2		
	作業療法特論(基礎)	4前		1			1				
	作業療法特論(身体障害)	4前		1				1			
	作業療法特論(精神障害)	4前		1			1				
	作業療法特論(発達障害)	4前		1					1		1
	作業療法特論(老年期障害)	4前		1		1					
	地域作業療法学	3前		2		1					
	地域作業療法学演習	3前		1		1					
	生活環境整備演習	3前		1		1					1
	臨床見学実習	1後		1		1	2	1	2		
	臨床評価実習	2後		3		1	2	1	2		
	臨床実習Ⅰ	3後		7		1	2	1	2		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		1	2	1	2		
専門科目（言語聴覚学）	言語聴覚障害概論	1前		2		2	1	2			
	言語聴覚障害診断学演習	2後		1		2	1	2			
	言語聴覚研究方法論	3前		1		2	1	1			
	言語聴覚研究	4通		3		2	1	1			
	失語症学	2前		2			1				1
	高次脳機能障害学	2前		2			1				
	失語症評価演習	2通		2			1				1
	高次脳機能障害評価演習	2後		1			1				
	失語症治療学	3前		2			1				1
	高次脳機能障害治療学	3前		1			1				
	言語発達障害学	2後		2		1		1	1		
	言語発達障害評価演習	3前		1		1		1	1		
	言語発達障害治療学	3前		2		1		1	1		
	言語発達障害演習	4前		1		1		1	1		
	病理音声学	2前		2		1					
	発声発語障害治療学Ⅰ(小児)	2前		2		1		1			
	発声発語障害治療学Ⅱ(成人)	2後		2		1					
	発声発語障害治療学Ⅲ(音声・非流暢発話)	3前		4		1					2

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（作業療法学）	日常生活活動	2前		1					1		
	日常生活活動演習	2後		1					1		
	作業療法演習	4後		2			1		3		
	作業療法評価実習	2後		2		1	2	1	5		
	作業療法治療実習Ⅰ	3前		2		1	2	1	5		
	作業療法治療実習Ⅱ	4前		1		1	2	1	5		
	作業療法特論(基礎)	4前		1			1				
	作業療法特論(身体障害)	4前		1				1			
	作業療法特論(精神障害)	4前		1			1				
	作業療法特論(発達障害)	4前		1					1		1
	作業療法特論(老年期障害)	4前		1		1					
	地域作業療法学	3前		2		1					
	地域作業療法学演習	3前		1		1					
	生活環境整備演習	3前		1		1					1
	臨床見学実習	1後		1		1	2	1	5		
	臨床評価実習	2後		3		1	2	1	5		
	臨床実習Ⅰ	3後		7		1	2	1	5		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		1	2	1	5		
専門科目（言語聴覚学）	言語聴覚障害概論	1前		2		2	1	2			
	言語聴覚障害診断学演習	2後		1		2	1	2		1	
	言語聴覚研究方法論	3前		1		2	1	1			
	言語聴覚研究	4通		3		2	1	1			
	失語症学	2前		2			1				1
	高次脳機能障害学	2前		2			1				
	失語症評価演習	2通		2			1		1		
	高次脳機能障害評価演習	2後		1			1		1		
	失語症治療学	3前		2			1				1
	高次脳機能障害治療学	3前		1			1				
	言語発達障害学	2後		2		1		1	1		
	言語発達障害評価演習	3前		1		1		1	1		
	言語発達障害治療学	3前		2		1		1	1		
	言語発達障害演習	4前		1		1		1	1		
	病理音声学	2前		2		1					
	発声発語障害治療学Ⅰ(小児)	2前		2		1		1			
	発声発語障害治療学Ⅱ(成人)	2後		2		1					
	発声発語障害治療学Ⅲ(音声・非流暢発話)	3前		4		1					2

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（言語聴覚学）	摂食・嚥下障害学	2前		2		1					1
	発声発語・摂食嚥下評価演習	2後		1		1					
	摂食・嚥下障害治療学	3前		1		2		1			
	成人聴覚障害学	2前		2				1			
	聴覚障害評価演習	2後		1				1	1		
	小児聴覚障害学	3前		2				1			
	聴覚障害治療学	3前		1				1	1		
	聴覚補償学	4前		2				1	1		
	臨床見学実習	1後		1		2	1	2	1		
	臨床評価実習	2後		3		2	1	2	1		
	臨床実習Ⅰ	3後		5		2	1	2	1		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		2	1	2	1		
小計(114科目)		-									
選択必修科目（言語聴覚学）	カウンセリング	3前		1		1					
	言語聴覚検査演習Ⅰ(小児)	2前		1		1		1			
	言語聴覚検査演習Ⅱ(成人)	2後		1				1	1		
	言語聴覚評価演習	2後		1		2	1	2			
	地域参加支援演習Ⅰ(理論)	2後		1		2	1	2			
	地域参加支援演習Ⅱ(実践)	3前		1		2	1	2			
	地域参加論Ⅰ(理論)	4前		1		2	1	2			
	地域参加論Ⅱ(統合)	4後		1		2	1	2			
	言語聴覚臨床総論	4後		2		2	1	2			
小計(9科目)		-									
合計(209科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
(理学療法学専攻)											
理学療法士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 37単位(必修20単位、選択17単位)											
専門科目 64単位(理学療法学選択64単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											
(作業療法学専攻)											
作業療法士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 35単位(必修20単位、選択15単位)											
専門科目 66単位(作業療法学選択66単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											
(言語聴覚学専攻)											
言語聴覚士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 38単位(必修20単位、選択18単位)											
専門科目 55単位(言語聴覚学選択55単位)											
選択必修科目 8単位(言語聴覚学選択8単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（言語聴覚学）	摂食・嚥下障害学	2前		2		1					
	発声発語・摂食嚥下評価演習	2後		1		1			1	1	
	摂食・嚥下障害治療学	3前		1		2		1			
	成人聴覚障害学	2前		2				1			
	聴覚障害評価演習	2後		1				1	1		
	小児聴覚障害学	3前		2				1			
	聴覚障害治療学	3前		1				1	1		
	聴覚補償学	4前		2				1	1		
	臨床見学実習	1後		1		2	1	2	3	1	
	臨床評価実習	2後		3		2	1	2	3	1	
	臨床実習Ⅰ	3後		5		2	1	2	3	1	
	臨床実習Ⅱ	4前		7		2	1	2	3	1	
小計(114科目)		-									
選択必修科目（言語聴覚学）	カウンセリング	3前		1		1					
	言語聴覚検査演習Ⅰ(小児)	2前		1		1		1			
	言語聴覚検査演習Ⅱ(成人)	2後		1				1	1		
	言語聴覚評価演習	2後		1		2	1	2	3	1	
	地域参加支援演習Ⅰ(理論)	2後		1		2	1	2		1	
	地域参加支援演習Ⅱ(実践)	3前		1		2	1	2		1	
	地域参加論Ⅰ(理論)	4前		1		2	1	2			
	地域参加論Ⅱ(統合)	4後		1		2	1	2			
	言語聴覚臨床総論	4後		2		2	1	2			
小計(9科目)		-									
合計(209科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
(理学療法学専攻)											
理学療法士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 37単位(必修20単位、選択17単位)											
専門科目 64単位(理学療法学選択64単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											
(作業療法学専攻)											
作業療法士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 35単位(必修20単位、選択15単位)											
専門科目 66単位(作業療法学選択66単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											
(言語聴覚学専攻)											
言語聴覚士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 38単位(必修20単位、選択18単位)											
専門科目 55単位(言語聴覚学選択55単位)											
選択必修科目 8単位(言語聴覚学選択8単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											

【平成29年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
一般 教育 科 目	安全学	3前		2		1					
	教育学	1前		2							1
	統計学	2後		2		1					
	情報科学	2前		2		1					
	情報処理	3前		2				1			
	物理学	1前		2		1					
	生物学	1前	2								1
	人間工学	1後		2				1			
	文化人類学	2前		2							1
	哲学	2前		2							1
	人間関係論	2後		2							1
	心理学	1後		2							1
	家族心理学	2前		2							1
	生命倫理	1後	2								1
	倫理学	1前	2								1
	社会福祉学	1前		2							3
	ボランティア論	1通		2							1
	英語Ⅰ	1前・後	2			1	1				
	英語Ⅱ	2前・後	2			1	1				
	英語Ⅲ	2前・後		2		1	1				
	英語Ⅳ	3前		2		1	1				
	英会話	1前・後		2		1	1				
	フレッシュャーズセ ミナーⅠ	1前	2			1					
	フレッシュャーズセ ミナーⅡ	1前～後	2			3					2
	日本国憲法	1前		2							1
	体育	1前		2							1
	スポーツ医学Ⅰ	2前			2						3
	スポーツ医学Ⅱ	2前			2						2
	スポーツ社会経営 学	4前			2						1
	コーチング論	3前			2						1
	競技者育成システ ム論	3後			1						1
	トレーニング科学Ⅰ	1前			2						1
	スポーツ栄養学Ⅰ	3前			1						1
	アスレティック レーナーの役割	1前			2		1				
	小計(34科目)	-									
専門 基 礎 科 目	解剖学総論	1前	2								1
	解剖学演習Ⅰ	1前		2		1					
	解剖学演習Ⅱ	1前		2		1					
	解剖学演習Ⅲ	1後		2		2					
	生理学	1前	2			1					
	生理学演習	1後		1		1					
	運動学	2前	2			1		1			
	運動学演習(バイ オメカニクス)	2後		1		1	2	1	1		
	人間発達学	1後	2			1					
	臨床心理学	3前	2								1
	内科学Ⅰ	2前	1								1
	内科学Ⅱ	2前	1								1
	臨床神経学	1後	1								1
	臨床神経学演習	2前		1							1

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
一般 教育 科 目	安全学	3前		2		1					
	教育学	1前		2							1
	統計学	2後		2		1					
	情報科学	2前		2		1					
	情報処理	3前		2				1			
	物理学	1前		2		1					
	生物学	1前	2								1
	人間工学	1後		2				1			
	文化人類学	2前		2							1
	哲学	2前		2							1
	人間関係論	2後		2							1
	心理学	1後		2							1
	家族心理学	2前		2							1
	生命倫理	1後	2								1
	倫理学	1前	2								1
	社会福祉学	1前		2							3
	ボランティア論	1通		2							1
	英語Ⅰ	1前・後	2			1	1				
	英語Ⅱ	2前・後	2			1	1				
	英語Ⅲ	2前・後		2		1	1				
	英語Ⅳ	3前		2		1	1				
	英会話	1前・後		2		1	1				
	フレッシュャーズセ ミナーⅠ	1前	2			1					
	フレッシュャーズセ ミナーⅡ	1前～後	2			3					2
	日本国憲法	1前		2							1
	体育	1前		2							1
	スポーツ医学Ⅰ	2前			2						3
	スポーツ医学Ⅱ	2前			2						2
	スポーツ社会経営 学	4前			2						1
	コーチング論	3前			2						1
	競技者育成システ ム論	3後			1						1
	トレーニング科学Ⅰ	1前			2						1
	スポーツ栄養学Ⅰ	3前			1						1
	アスレティック レーナーの役割	1前			2		1				
	小計(34科目)	-									
専門 基 礎 科 目	解剖学総論	1前	2								1
	解剖学演習Ⅰ	1前		2		1					
	解剖学演習Ⅱ	1前		2		1					
	解剖学演習Ⅲ	1後		2		2					
	生理学	1前	2			1					
	生理学演習	1後		1		1					
	運動学	2前	2			1		1			
	運動学演習(バイ オメカニクス)	2後		1		1	2	1	1		
	人間発達学	1後	2			1					
	臨床心理学	3前	2								1
	内科学Ⅰ	2前	1								1
	内科学Ⅱ	2前	1								1
	臨床神経学	1後	1								1
	臨床神経学演習	2前		1							1

【平成29年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 基礎 科目	整形外科科学	1後	1								1
	スポーツ整形外科	1後		1							1
	精神医学	1後	1								1
	病理学	2前	1								1
	リハビリテーション 医学診断学	2前	1								1
	リハビリテーション 医学治療学	2前		1							1
	耳鼻咽喉科学	2前		1							1
	形成外科学	2後		1							1
	臨床歯科学	2前		1							1
	発声発語系医学	1後		1		1					
	神経系医学	1後		2							1
	聴覚系医学	1後		1							1
	リハビリテーション 概論	1前	1			1					
	保健医療論	1前		1		1					
	チーム医療論	3前	1								1
	薬理学	2前		1							1
	環境と健康	1前		1							1
	ナラティブ概論	3前		1			1				
	社会保障制度	4前		1		1					1
	スポーツ心理学	4前		1							1
	スポーツ内科学	2通		1							1
	救急処置	1後		1			1				
	トレーニング科学 Ⅱ	1後			1						1
	スポーツ栄養学Ⅱ	3後			1						1
	予防とコンディショ ニング	2後			3		1	1			
	アスレティックリハ ビリテーションⅠ	2前			1		1				
	アスレティックリハ ビリテーションⅡ	2後			1		1				
	現場実習Ⅰ(見学 実習)	1前			1		1	1			
	現場実習Ⅱ(評価 実習)	1後			1		1	1			
	現場実習Ⅲ(ス ポーツ現場実習)	2前			1		1	1			
	現場実習Ⅳ(アス レティックリハビリ テーション実習)	2後			1		1	1			
	現場実習Ⅴ(総合 実習)	3通			2		1	1			
	学習・認知心理学	3前		2							1
	心理測定法	2前		1							1
	言語学	1後		2		1	1				
	音声学	1前		2		1					
	音響学	1前		2				1			
	言語発達学	1後		1		1					
小計(52科目)		-									

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 基礎 科目	整形外科科学	1後	1								1
	スポーツ整形外科	1後		1							1
	精神医学	1後	1								1
	病理学	2前	1								1
	リハビリテーション 医学診断学	2前	1								1
	リハビリテーション 医学治療学	2前		1							1
	耳鼻咽喉科学	2前		1							1
	形成外科学	2後		1							1
	臨床歯科学	2前		1							1
	発声発語系医学	1後		1			1				
	神経系医学	1後		2							1
	聴覚系医学	1後		1							1
	リハビリテーション 概論	1前	1				1				
	保健医療論	1前		1			1				
	チーム医療論	3前	1								1
	薬理学	2前		1							1
	環境と健康	1前		1							1
	ナラティブ概論	3前		1				1			
	社会保障制度	4前		1			1				1
	スポーツ心理学	4前		1							1
	スポーツ内科学	2通		1							1
	救急処置	1後		1				1			
	トレーニング科学 Ⅱ	1後			1						1
	スポーツ栄養学Ⅱ	3後			1						1
	予防とコンディショ ニング	2後			3		1	1			
	アスレティックリハ ビリテーションⅠ	2前			1		1				
	アスレティックリハ ビリテーションⅡ	2後			1				1		
	現場実習Ⅰ(見学 実習)	1前			1		1		2		
	現場実習Ⅱ(評価 実習)	1後			1		1		2		
	現場実習Ⅲ(ス ポーツ現場実習)	2前			1		1		2		
	現場実習Ⅳ(アス レティックリハビリ テーション実習)	2後			1		1		2		
	現場実習Ⅴ(総合 実習)	3通			2		1		2		
	学習・認知心理学	3前		2							1
	心理測定法	2前		1							1
	言語学	1後		2			1	1			
	音声学	1前		2			1				
	音響学	1前		2					1		
	言語発達学	1後		1			1				
小計(52科目)		-									

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（理学療法学）	理学療法概論	1前		1		1					
	基礎理学療法学	1前		1		1					
	理学療法基礎理論	2後		1				1			
	運動発達学	2後		1					1		1
	研究方法論	3前		1		1					
	研究方法論演習	3後		1		5	1	2			
	理学療法研究	4通		3		5	1	2			
	基礎理学療法評価学	1後		1		1					
	神経系検査法	2前		2		1					
	運動器系検査法Ⅰ（関節可動域測定）	2前		2				1			
	運動器系検査法Ⅱ（筋力測定）	2前		2				1			
	運動・動作分析学	2前		1		5	1	2			
	基礎運動治療技術学	2前		1			1				
	運動器系理学療法Ⅰ（骨折）	2後		1		1					
	運動器系理学療法Ⅱ（スポーツ外傷）	2後		1			1				
	運動器系理学療法Ⅲ（脊椎・関節障害）	2後		1				1			
	神経系理学療法学	3前		1		1					
	中枢神経系理学療法Ⅰ（脳血管障害評価）	2後		1		1			1		
	中枢神経系理学療法Ⅱ（脳血管障害治療）	3前		1		1			1		
	中枢神経系理学療法Ⅲ（パキンソン・失調症）	3前		1		1			1		
	発達障害系理学療法学	3前		1					1		1
	発達障害系理学療法学演習	4前		1					1		1
	内部障害系理学療法学	3前		2		1					2
	内部障害系理学療法学演習	4前		1		1			1		2
	理学療法評価治療演習	2後		2		5	1	2			
	物理療法学	3前		1		1					
	物理療法学演習	3前		1		1					
	日常生活活動評価学	2前		1		1					
	日常生活動作指導法	3前		1		1					
	義肢・装具学	3前		2		1					1
	義肢・装具学演習	4前		1		1			1		
	神経系理学療法治療技術	4前		1		1			1		
	運動器系治療技術Ⅰ（運動機能障害の評価と治療）	3前		1		1					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（理学療法学）	理学療法概論	1前		1		1					
	基礎理学療法学	1前		1		1					
	理学療法基礎理論	2後		1				1			
	運動発達学	2後		1					1		1
	研究方法論	3前		1		1					
	研究方法論演習	3後		1		5	1	4	2		
	理学療法研究	4通		3		5	1	4	2		
	基礎理学療法評価学	1後		1		1					
	神経系検査法	2前		2				1			
	運動器系検査法Ⅰ（関節可動域測定）	2前		2				1			
	運動器系検査法Ⅱ（筋力測定）	2前		2				1			
	運動・動作分析学	2前		1		5	1	4	2		
	基礎運動治療技術学	2前		1			1				
	運動器系理学療法Ⅰ（骨折）	2後		1		1					
	運動器系理学療法Ⅱ（スポーツ外傷）	2後		1			1				
	運動器系理学療法Ⅲ（脊椎・関節障害）	2後		1				1			
	神経系理学療法学	3前		1		1					
	中枢神経系理学療法Ⅰ（脳血管障害評価）	2後		1		1		1			
	中枢神経系理学療法Ⅱ（脳血管障害治療）	3前		1		1		1			
	中枢神経系理学療法Ⅲ（パキンソン・失調症）	3前		1		1		1			
	発達障害系理学療法学	3前		1					1		1
	発達障害系理学療法学演習	4前		1					2		
	内部障害系理学療法学	3前		2		1					2
	内部障害系理学療法学演習	4前		1		1			1		2
	理学療法評価治療演習	2後		2		5	1	4	2		
	物理療法学	3前		1		1					
	物理療法学演習	3前		1		1					
	日常生活活動評価学	2前		1		1					
	日常生活動作指導法	3前		1		1					
	義肢・装具学	3前		2		1					1
	義肢・装具学演習	4前		1		1		1			
	神経系理学療法治療技術	4前		1		1		1			
	運動器系治療技術Ⅰ（運動機能障害の評価と治療）	3前		1		1					

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（理学療法）	運動器系治療技術Ⅱ（徒手の理学療法）	4前		1		1					
	地域理学療法	3前		2		2					
	生活環境整備学	3前		2		1					
	臨床見学実習	1後		1		4	1	2	3		
	臨床評価実習	2後		3		5	1	2	3		
	臨床実習Ⅰ	3後		7		5	1	2	3		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		5	1	2	3		
専門科目（作業療法）	作業療法概論	1前		2			1				
	研究法	3前		2		1					
	研究法演習	3後		1		1	2	1	1		
	作業療法研究	4通		3		1	2	1	1		
	作業分析学	2前		2			1				
	作業技法（基礎）	2前		1					1		
	作業技法（編み物・陶芸）	2後		1					1		
	作業技法（革細工・藤細工）	2後		1				1			
	作業療法評価学	1前		2			1				
	身体機能評価演習Ⅰ	1後		2					1		
	身体機能評価演習Ⅱ	2前		2					1		
	心理社会機能評価演習Ⅰ	1後		2			1				
	心理社会機能評価演習Ⅱ	2前		2			1	1			
	作業治療学の基礎	4前		1			1				
	身体障害作業療法	2後		1			1				
	身体障害作業療法演習Ⅰ（脳血管障害・神経系疾患）	2後		2				1	1		
	身体障害作業療法演習Ⅱ（脊髄損傷・リウマチ）	3前		1				1	1		
	身体障害作業療法演習Ⅲ（骨折・切断・内部障害）	3前		1			1		1		
	精神障害作業療法	2前		1			1				
	精神障害作業療法演習Ⅰ（作業療法）	2後		1			1				
	精神障害作業療法演習Ⅱ（臨床関係論）	3前		1			1				
	発達障害作業療法	2後		1					1		1
	発達障害作業療法演習	3前		1					1		
	高次神経障害学	2後		1				1			
	老年期障害作業療法	2前		1			1				
	老年期障害作業療法演習	3前		1			1				

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（理学療法）	運動器系治療技術Ⅱ（徒手の理学療法）	4前		1		1					
	地域理学療法	3前		2		2					
	生活環境整備学	3前		2		1					
	臨床見学実習	1後		1		4	1	4	4		
	臨床評価実習	2後		3		5	1	4	4		
	臨床実習Ⅰ	3後		7		5	1	4	4		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		5	1	4	4		
専門科目（作業療法）	作業療法概論	1前		2			1				
	研究法	3前		2		1					
	研究法演習	3後		1		1	2	1	1		
	作業療法研究	4通		3		1	2	1	1		
	作業分析学	2前		2			1				
	作業技法（基礎）	2前		1					1		
	作業技法（編み物・陶芸）	2後		1					1		
	作業技法（革細工・藤細工）	2後		1				1			
	作業療法評価学	1前		2			1				
	身体機能評価演習Ⅰ	1後		2					1		
	身体機能評価演習Ⅱ	2前		2					1		
	心理社会機能評価演習Ⅰ	1後		2					1		
	心理社会機能評価演習Ⅱ	2前		2			1	1			
	作業治療学の基礎	4前		1			1				
	身体障害作業療法	2後		1			1				
	身体障害作業療法演習Ⅰ（脳血管障害・神経系疾患）	2後		2				1	1		
	身体障害作業療法演習Ⅱ（脊髄損傷・リウマチ）	3前		1				1	1		
	身体障害作業療法演習Ⅲ（骨折・切断・内部障害）	3前		1			1		1		
	精神障害作業療法	2前		1			1				
	精神障害作業療法演習Ⅰ（作業療法）	2後		1			1				
	精神障害作業療法演習Ⅱ（臨床関係論）	3前		1			1				
	発達障害作業療法	2後		1					1		1
	発達障害作業療法演習	3前		1					1		
	高次神経障害学	2後		1				1			
	老年期障害作業療法	2前		1			1				
	老年期障害作業療法演習	3前		1			1				

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（作業療法学）	日常生活活動	2前		1					1		
	日常生活活動演習	2後		1					1		
	作業療法演習	4後		2			1				
	作業療法評価実習	2後		2		1	2	1	2		
	作業療法治療実習Ⅰ	3前		2		1	2	1	2		
	作業療法治療実習Ⅱ	4前		1		1	2	1	2		
	作業療法特論(基礎)	4前		1			1				
	作業療法特論(身体障害)	4前		1				1			
	作業療法特論(精神障害)	4前		1			1				
	作業療法特論(発達障害)	4前		1					1		1
	作業療法特論(老年期障害)	4前		1		1					
	地域作業療法学	3前		2		1					
	地域作業療法学演習	3前		1		1					
	生活環境整備演習	3前		1		1					1
	臨床見学実習	1後		1		1	2	1	2		
	臨床評価実習	2後		3		1	2	1	2		
	臨床実習Ⅰ	3後		7		1	2	1	2		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		1	2	1	2		
専門科目（言語聴覚学）	言語聴覚障害概論	1前		2		2	1	2			
	言語聴覚障害診断学演習	2後		1		2	1	2			
	言語聴覚研究方法論	3前		1		2	1	1			
	言語聴覚研究	4通		3		2	1	1			
	失語症学	2前		2			1				1
	高次脳機能障害学	2前		2			1				
	失語症評価演習	2通		2			1				1
	高次脳機能障害評価演習	2後		1			1				
	失語症治療学	3前		2			1				1
	高次脳機能障害治療学	3前		1			1				
	言語発達障害学	2後		2		1		1	1		
	言語発達障害評価演習	3前		1		1		1	1		
	言語発達障害治療学	3前		2		1		1	1		
	言語発達障害演習	4前		1		1		1	1		
	病理音声学	2前		2		1					
	発声発語障害治療学Ⅰ(小児)	2前		2		1		1			
	発声発語障害治療学Ⅱ(成人)	2後		2		1					
	発声発語障害治療学Ⅲ(音声・非流暢発話)	3前		4		1					2

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（作業療法学）	日常生活活動	2前		1						1	
	日常生活活動演習	2後		1						1	
	作業療法演習	4後		2				1		2	
	作業療法評価実習	2後		2		1	2	1		4	
	作業療法治療実習Ⅰ	3前		2		1	2	1		4	
	作業療法治療実習Ⅱ	4前		1		1	2	1		4	
	作業療法特論(基礎)	4前		1			1				
	作業療法特論(身体障害)	4前		1				1			
	作業療法特論(精神障害)	4前		1				1			
	作業療法特論(発達障害)	4前		1						1	1
	作業療法特論(老年期障害)	4前		1		1					
	地域作業療法学	3前		2		1					
	地域作業療法学演習	3前		1		1					
	生活環境整備演習	3前		1		1					1
	臨床見学実習	1後		1		1	2	1		4	
	臨床評価実習	2後		3		1	2	1		4	
	臨床実習Ⅰ	3後		7		1	2	1		4	
	臨床実習Ⅱ	4前		7		1	2	1		4	
専門科目（言語聴覚学）	言語聴覚障害概論	1前		2		2	1	2			
	言語聴覚障害診断学演習	2後		1		2	1	2			
	言語聴覚研究方法論	3前		1		2	1	1			
	言語聴覚研究	4通		3		2	1	1			
	失語症学	2前		2			1				1
	高次脳機能障害学	2前		2			1				
	失語症評価演習	2通		2			1				1
	高次脳機能障害評価演習	2後		1			1				
	失語症治療学	3前		2			1				1
	高次脳機能障害治療学	3前		1			1				
	言語発達障害学	2後		2		1		1	1		
	言語発達障害評価演習	3前		1		1		1	1		
	言語発達障害治療学	3前		2		1		1	1		
	言語発達障害演習	4前		1		1		1	1		
	病理音声学	2前		2		1					
	発声発語障害治療学Ⅰ(小児)	2前		2		1		1			
	発声発語障害治療学Ⅱ(成人)	2後		2		1					
	発声発語障害治療学Ⅲ(音声・非流暢発話)	3前		4		1					2

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（言語聴覚学）	摂食・嚥下障害学	2前		2		1					1
	発声発語・摂食嚥下評価演習	2後		1		1					
	摂食・嚥下障害治療学	3前		1		2		1			
	成人聴覚障害学	2前		2				1			
	聴覚障害評価演習	2後		1				1	1		
	小児聴覚障害学	3前		2				1			
	聴覚障害治療学	3前		1				1	1		
	聴覚補償学	4前		2				1	1		
	臨床見学実習	1後		1		2	1	2	1		
	臨床評価実習	2後		3		2	1	2	1		
	臨床実習Ⅰ	3後		5		2	1	2	1		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		2	1	2	1		
小計(114科目)		-									
選択必修科目（言語聴覚学）	カウンセリング	3前		1							
	言語聴覚検査演習Ⅰ(小児)	2前		1		1		1			
	言語聴覚検査演習Ⅱ(成人)	2後		1				1	1		
	言語聴覚評価演習	2後		1		2	1	2			
	地域参加支援演習Ⅰ(理論)	2後		1		2	1	2			
	地域参加支援演習Ⅱ(実践)	3前		1		2	1	2			
	地域参加論Ⅰ(理論)	4前		1		2	1	2			
	地域参加論Ⅱ(統合)	4後		1		2	1	2			
	言語聴覚臨床総論	4後		2		2	1	2			
小計(9科目)		-									
合計(209科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
(理学療法学専攻)											
理学療法士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 37単位(必修20単位、選択17単位)											
専門科目 64単位(理学療法学選択64単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											
(作業療法学専攻)											
作業療法士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 35単位(必修20単位、選択15単位)											
専門科目 66単位(作業療法学選択66単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											
(言語聴覚学専攻)											
言語聴覚士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 38単位(必修20単位、選択18単位)											
専門科目 55単位(言語聴覚学選択55単位)											
選択必修科目 8単位(言語聴覚学選択8単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目（言語聴覚学）	摂食・嚥下障害学	2前		2		1					1
	発声発語・摂食嚥下評価演習	2後		1		1					
	摂食・嚥下障害治療学	3前		1		2		1			
	成人聴覚障害学	2前		2				1			
	聴覚障害評価演習	2後		1				1	1		
	小児聴覚障害学	3前		2				1			
	聴覚障害治療学	3前		1				1	1		
	聴覚補償学	4前		2				1	1		
	臨床見学実習	1後		1		2	1	2	1		
	臨床評価実習	2後		3		2	1	2	1		
	臨床実習Ⅰ	3後		5		2	1	2	1		
	臨床実習Ⅱ	4前		7		2	1	2	1		
小計(114科目)		-									
選択必修科目（言語聴覚学）	カウンセリング	3前		1							
	言語聴覚検査演習Ⅰ(小児)	2前		1		1		1			
	言語聴覚検査演習Ⅱ(成人)	2後		1				1	1		
	言語聴覚評価演習	2後		1		2	1	2			
	地域参加支援演習Ⅰ(理論)	2後		1		2	1	2			
	地域参加支援演習Ⅱ(実践)	3前		1		2	1	2			
	地域参加論Ⅰ(理論)	4前		1		2	1	2			
	地域参加論Ⅱ(統合)	4後		1		2	1	2			
	言語聴覚臨床総論	4後		2		2	1	2			
小計(9科目)		-									
合計(209科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
(理学療法学専攻)											
理学療法士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 37単位(必修20単位、選択17単位)											
専門科目 64単位(理学療法学選択64単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											
(作業療法学専攻)											
作業療法士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 35単位(必修20単位、選択15単位)											
専門科目 66単位(作業療法学選択66単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											
(言語聴覚学専攻)											
言語聴覚士国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 38単位(必修20単位、選択18単位)											
専門科目 55単位(言語聴覚学選択55単位)											
選択必修科目 8単位(言語聴覚学選択8単位)											
合計 125単位以上修得(必修34単位、選択91単位)											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

科目担当教員選抜の理由のより、「解剖学演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
科目担当教員選抜の理由のより、「解剖学演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」、「助教1」から「助教0」に変更。

【平成30年度】

・新採用の理由により、「アスレティックリハビリテーションⅡ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」、「講師0」から「講師1」に変更。
・新採用の理由により、「現場実習Ⅰ（見学実習）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
・新採用の理由により、「現場実習Ⅱ（評価実習）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
・新採用の理由により、「現場実習Ⅲ（スポーツ現場実習）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
・新採用の理由により、「現場実習Ⅳ（アスレティックリハビリテーション実習）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
・新採用の理由により、「現場実習Ⅴ（総合実習）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。

【専門科目（理学療法学）】

・新採用、職位変更（審査済）の理由により、「研究方法論演習」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」、「助教0」から「助教2」に変更。
・新採用、職位変更（審査済）の理由により、「理学療法研究」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」、「助教0」から「助教2」に変更。
・科目適合（審査済）の理由により、「神経系検査法」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「講師0」から「講師1」に変更。
・新採用、職位変更（審査済）の理由により、「運動・動作分析学」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」、「助教0」から「助教2」に変更。
・職位変更（審査済）の理由により、「中枢神経系理学療法Ⅰ（脳血管障害評価）」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「助教1」から「助教0」に変更。
・職位変更（審査済）の理由により、「中枢神経系理学療法Ⅱ（脳血管障害治療）」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「助教1」から「助教0」に変更。
・職位変更（審査済）の理由により、「中枢神経系理学療法Ⅲ（パキンソン・失調症）」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「助教1」から「助教0」に変更。
・新採用の理由により、「発達障害系理学療法学演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教2」、「兼任1」から「兼任0」に変更。
・新採用、職位変更（審査済）の理由により、「理学療法評価治療演習」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」、「助教0」から「助教2」に変更。
・職位変更（審査済）の理由により、「義肢・装具学演習」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「助教1」から「助教0」に変更。
・職位変更（審査済）の理由により、「神経系理学療法治療技術」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」、「助教1」から「助教0」に変更。
・新採用、職位変更（審査済）の理由により、「臨床見学実習」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」、「助教3」から「助教4」に変更。
・新採用、職位変更（審査済）の理由により、「臨床評価実習」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」、「助教3」から「助教4」に変更。
・新採用、職位変更（審査済）の理由により、「臨床実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」、「助教3」から「助教4」に変更。
・新採用、職位変更（審査済）の理由により、「臨床実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」、「助教3」から「助教4」に変更。

【専門科目（作業療法学）】

・新採用の理由により、「心理社会機能評価演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」、「助教0」から「助教1」に変更。
・新採用の理由により、「作業療法演習」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教2」に変更。
・新採用の理由により、「作業療法評価実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。
・新採用の理由により、「作業療法治療実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。
・新採用の理由により、「作業療法治療実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。
・新採用の理由により、「作業療法治療実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。
・新採用の理由により、「作業療法治療実習Ⅳ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。
・新採用の理由により、「臨床見学実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。
・新採用の理由により、「臨床評価実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。
・新採用の理由により、「臨床実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。
・新採用の理由により、「臨床実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教4」に変更。

【令和元年度】

- ・新採用の理由により、「臨床神経学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・新採用の理由により、「臨床神経学演習」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・新採用の理由により、「リハビリテーション医学診断学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・新採用の理由により、「リハビリテーション医学治療学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・新採用の理由により、「神経系医学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「兼任1」から「兼任0」に変更。

【専門科目（理学療法学）】

- ・科目適合（審査済）の理由により、「研究方法論演習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「理学療法研究」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「運動・動作分析学」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「運動器系理学療法学Ⅰ（骨折）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「中枢神経系理学療法学Ⅰ（脳血管障害評価）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「講師1」から「講師2」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「中枢神経系理学療法学Ⅱ（脳血管障害治療）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「講師1」から「講師2」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「中枢神経系理学療法学Ⅲ（パキンソン・失調症）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「講師1」から「講師2」に変更。
- ・退職の理由により、「発達障害系理学療法学演習」の専任教員等を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「理学療法評価治療演習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・退職の理由により、「臨床見学実習」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教3」に変更。
- ・退職の理由により、「臨床評価実習」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教3」に変更。
- ・退職の理由により、「臨床実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教3」に変更。
- ・退職の理由により、「臨床実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教3」に変更。

【専門科目（作業療法学）】

- ・科目適合（審査済）の理由により、「作業療法研究」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教4」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「心理社会機能評価演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「精神障害作業療法学演習Ⅰ（作業治療法）」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」、「助教0」から「助教1」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「作業療法演習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教3」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「作業療法評価実習」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教5」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「作業療法治療実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教5」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「作業療法治療実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教5」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「臨床見学実習」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教5」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「臨床評価実習」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教5」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「臨床実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教5」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「臨床実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教4」から「助教5」に変更。

【専門科目（言語聴覚学）】

- ・新採用の理由により、「失語症評価演習」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」、「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・新採用の理由により、「高次脳機能障害評価演習」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・新採用の理由により、「発声発語・摂食嚥下評価演習」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・新採用の理由により、「臨床見学実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教3」に変更。
- ・新採用の理由により、「臨床評価実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教3」に変更。
- ・新採用の理由により、「臨床実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教3」に変更。
- ・新採用の理由により、「臨床実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教3」に変更。
- ・新採用の理由により、「言語聴覚評価演習」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教2」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
22 科目	169 科目	18 科目	209 科目	22 科目 [0]	169 科目 [0]	18 科目 [0]	209 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	(該当なし)					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	(該当なし)					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(該当なし)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{209} = \boxed{0.95} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積：17011.00㎡ 借用期間：H11.1.1～ 40年間			
	校 舎 敷 地	5,642.21㎡	0㎡	0㎡	5,642.21㎡				
	運動場用地	4,082.27㎡	0㎡	0㎡	4,082.27㎡				
	小 計	9,724.48㎡	0㎡	0㎡	9,724.48㎡				
	そ の 他	9,919.96㎡	0㎡	0㎡	9,919.96㎡				
	合 計	19,644.44㎡	0㎡	0㎡	19,644.44㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		14,849.82㎡ (14,849.82㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	14,849.82㎡ (14,849.82㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	部屋の間仕切りを一部 なくしたための減少 (29)			
	18室	16室 26室	25室	1室 (補助職員 1人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	保健医療学部リハビリテーション学科			16 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	保健医療学部	22,189 [411] (20,989 [411])	170 [40] (170 [40])	7 [7] (7 [7])	571 (571)	5591 (5,591)	122 (122)		
	計	22,189 [411] (20,989 [411])	170 [40] (170 [40])	7 [7] (7 [7])	571 (571)	5591 (5,591)	122 (122)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		座席数の増加(29)		
	1016.54㎡		146席 104席		50,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1,140.00㎡		- -						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	15,700千円	17,000千円	17,000千円	
		共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	2,000千円	2,000千円	2,000千円	
	学生1人当り	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	理学療法専攻	1,550千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	一千円	一千円		
	作業療法専攻	1,550千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	一千円	一千円		
	言語聴覚専攻	1,500千円	1,250千円	1,250千円	1,250千円	一千円	一千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、雑収入						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	福井医療大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
保健医療学部										
リハビリテー ション学科	4	120	-	480	-	0.85	-	平成29年度	福井県福井市江上町55-13-1	
理学療法学専攻	4	50	-	200	学士 (理学療法学)	1.07	-	平成29年度	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	0.72	-	平成29年度	同上	
言語聴覚学専攻	4	30	-	120	学士 (言語聴覚学)	0.65	-	平成29年度	同上	
看護学科	4	60	-	240	学士 (看護学)	1.16	-	平成29年度	同上	
大 学 の 名 称	(該当なし)									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
(該当なし)	年	人	年次 人	人		倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) ー① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
15 名	8 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) ー② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
13 — (10)	5 — (3)	6 — (5)	6 — (2)	30 — (20)	15	5	8	11	39
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
15 — [2]	5 — [0]	8 — [2]	11 — [5]	39 — [9]	15 — [2]	5 — [0]	8 — [2]	11 — [5]	39 — [9]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ー③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
60 歳	10 名	11 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ー④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況 (C)}}{\text{設置時の計画 (A)}} = \frac{39}{30} = \boxed{130} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ー⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況 (B)}} = \frac{10}{39} = \boxed{25.64} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (28年)	・設置の趣旨・目的等 が生かされるよう、設 置計画を確実に履行す ること。また、開設時 から4年制大学にふさ わしい教育研究活動 を行うことはもとより、 その水準を一層向上さ せるよう努めること。	留意事項 設置計画は、設置認可時に 掲げた理念・目的・教育目 標を軸に、入学者選抜、教 育課程、学位授与の方針に 沿って実施している。 教育研究活動は、FD会議、 研究促進会議、地域保健教 育推進委員会主催のFD研修 会、授業評価アンケート、コン プライアンス研修、研究倫理研修、出 前講義を行う。(29)	履行済
認 可 時 (28年)	・完成年度前に、定年 規程に定める退職年齢 を超える専任教員数の 割合が比較的高いこと から、定年規程の趣旨 を踏まえた適切な運用 に努めるとともに、教 員組織編制の将来構想 について着実に実施す ること。(リハビリ テーション学科)	留意事項 高齢の教員は、高度の知識 と技能を有しており、大学 完成年度に向けて、若手教 員の研究、指導には必要と 考えている。そのために も、開学後も30歳台中心の 若手教員の増員に関して、 専門分野を考慮し段階整備 し、高度の知識と技能を若 手教員に研究活動を通じて 教授していく。 同時に、高齢の教員が担当 している科目に関して、段 階的に科目申請を行う。 (29)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	・保健医療学部リハビリ テーション学科にお いて、定年規程に定め る退職年齢を超える専 任教員数の割合が比較 的高いことから、定年 規程の趣旨を踏まえた 適切な運用に努めると ともに、教員組織編制 の将来構想について検 討すること。	改善意見 高齢の教員は、高度の知識 と技能を有しており、大学 完成年度に向けて、若手教 員の研究、指導には必要と 考えている。平成29年4月開 学後に、若手教員の増員計 画のもと、30、40歳代の教 員5名の職位申請、科目申請 を行った。引き続き、大学 完成年度に向けて、若手教 員の研究、指導を行い、高 齢の教員が担当している科 目に関して、段階的に科目 申請を行う。(30)	履行済

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
(該当なし)	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 FD会議 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 原則として、月1回開催、必要に応じ臨時開催 会議の開催は、委員の3分の2以上の出席を以て成立 c 委員会の審議事項等 (1)大学教育における教員の授業内容・方法の改善のための組織的な取組に関すること (2)教育業績評価及び授業評価に関すること (3)その他大学教育の改善についての必要な事項に関すること ② 実施状況 a 実施内容 ・FD研修会の開催 ・FD報告書の作成 b 実施方法 ・FD研修会・・・年2回 ・FD報告書・・・3年に1回 c 開催状況（教員の参加状況含む） ・FD研修会・・・平成30年度 計 4回 214名 d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 研修では過去に以下の講演を行っており、教員には様々な視点からアプローチした講演内容を授業に反映できるよう努力を求め、結果は授業評価アンケートで一般に公開している。 講演内容・・・テーマ：アクティブ・ラーニング 弘前医療福祉大学ST専攻の実践と本学における今後の展開ならびに課題 モチベーションを高めるチームの在り方～チーム医療を担う医療職育成のために～ 授業交流会 ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 毎年、授業科目の試験時期に実施 b 教員や学生への公開状況、方法等 学生に対する授業評価アンケート結果は授業科目担当教員に返し、HPに公開している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

- c 委員会の審議事項等

該当なし

- d その他

該当なし

② 審議状況

- a 審議した内容

該当なし

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

学校教育法第69条の3及び学校教育法施行令第40条の規定に準じ、且つ学校法人新田塚学園福井医療大学学則第3条の規定に基づき、学園及び本学の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために、自ら点検及び評価を行い、併せて第三者による評価を実施する「自己点検・評価委員会」を設置する。

委員会では大学の理念目的が、教育研究組織、教育内容・方法・成果、学生の受け入れ、学生支援、教育研究等環境、社会連携・社会貢献、管理運営・財務、内部質保証に反映されているか検証し、報告書を作成していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和3年7月1日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和3年7月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和4年度に評価機関（未定）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 元年10月 1日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ー ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

福井医療大学F D会議規程

(目的)

第1条 福井医療大学（以下「本学」という。）教員の教育・研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、教授会の基に、FD（ファカルティ・ディベロップメント）会議（以下「会議」という。）を置く。

(組織)

第2条 会議は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) リハビリテーション学科 教員 3名
- (5) 看護学科 教員 1名
- (6) 事務員
- (7) 学長が指名した教職員

(任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 会議は学長がこれを招集し、その議長となる。

(会議)

第4条 会議は、原則として、月1回開催する。なお、必要に応じ臨時開催をすることができる。

- 2 会議の開催は、委員の3分の2以上の出席を以て成立するものとする。

(協議事項)

第5条 会議の協議事項は、次のとおりとする。

- (1) 大学教育における教員の授業内容・方法の改善のための組織的な取組に関すること。
- (2) 教育業績評価及び授業評価に関すること。
- (3) その他大学教育の改善についての必要な事項に関すること。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務課が担当し、連絡、議事録作成等を行う。

(報告)

第7条 委員会の活動については、教授会に議事録を添えて報告する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、運営会議の承認を得なければならない。

附 則

附則1 この規程は、平成29年4月1日より施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人新田塚学園

(2) 大 学 名

福井医療大学

(3) 大学の位置

〒910-3190

福井県福井市江上町55字鳥町13番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ハヤシ セイガク) 林 正岳 (平成17年4月1日)	—	
学 長	(ヤマグチ アキオ) 山口 明夫 (平成29年4月1日)	—	
学 部 長	(ホリ ヒデアキ) 堀 秀昭 (平成29年4月1日)	—	
学科長等	(オオグチ フミ) 大口 二美 (平成29年4月1日)	(モリヤマ エツコ) 森山 悦子 (平成29年4月1日)	選任のため平成29年4月1日変更(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関 係(看護学関 係)	4 年	60 人	- 年次 人	240 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	60人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	60人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	60人 (—) [—]	— 人 (—) [—]	1.16倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	256 (—) [—]	— (—) [—]	350 (—) [—]	— (—) [—]	255 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	243 (—) [—]	— (—) [—]	335 (—) [—]	— (—) [—]	245 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	111 (—) [—]	— (—) [—]	119 (—) [—]	— (—) [—]	138 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	74 (—) [—]	— (—) [—]	70 (—) [—]	— (—) [—]	67 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	1.23	—	1.16	—	1.11	—			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	73	-	69	-	67	-			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	()	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	71	-	78	-			
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(9)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	62	-			
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-			
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	73		140		207				
	[-]		[-]		[-]		[-]		[-]				
	(-)		(-)		(-)		(-)		(9)				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
平成28年度	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
平成29年度	74 人	1 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	1 人	0 人	家庭の事情(1人)
平成30年度	143 人	3 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)、就職(1人)
			平成30年度	1 人	0 人	除籍(1人)
令和元年度	207 人	0 人	平成27年度	－ 人	－ 人	
			平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		3 人		3 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{74} = \boxed{1.35} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{143} = \boxed{2.09} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{207} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健医療学部 看護学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
一般教育科目	安全学	3前		2							1
	教育学	1前		2							1
	統計学	2後		2							1
	情報科学	2前		2							1
	情報処理	3前		2							1
	物理学	1前		2							1
	生物学	1前	2								1
	人間工学	1後		2							1
	文化人類学	2前		2							1
	哲学	2前		2							1
	人間関係論	2後		2							1
	心理学	1後		2		1					
	家族心理学	2前		2							1
	生命倫理	1後	2								1
	倫理学	1前	2								1
	社会福祉学	1前		2							3
	ボランティア論	1通		2							1
	英語Ⅰ	1前・後	2								1
	英語Ⅱ	2前・後	2								1
	英語Ⅲ	2前・後		2							1
	英語Ⅳ	3前		2							1
	英会話	1前・後		2							1
	フレッシュャーズセミナーⅠ	1前	2								1
	フレッシュャーズセミナーⅡ	1前～後	2					1			4
	日本国憲法	1前		2							1
	体育	1前		2							1
	スポーツ医学Ⅰ	2前			2						3
	スポーツ医学Ⅱ	2前			2						2
	スポーツ社会経営学	4前			2						1
	コーチング論	3前			2						1
	競技者育成システム論	3後			1						1
	トレーニング科学Ⅰ	1前			2						1
	スポーツ栄養学Ⅰ	3前			1						1
	アスレティックトレーナーの役割	1前			2						1
小計(34科目)			-								
専門基礎科目	身体構造機能学Ⅰ	1通	2			1					
	身体構造機能学Ⅱ	1通	2			1					
	生化学	1後	1								1
	病態学総論	1後	1			1					
	疾病治療論Ⅰ(外科)	1後	1								3
	疾病治療論Ⅱ(整形・脳神経)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ(排泄・感覚・歯)	2前	1								4
	疾病治療論Ⅳ(呼吸・循環・血液)	1後	1			1					
	疾病治療論Ⅴ(腎臓・内分泌・消化)	2前	1			1					
	老年疾病治療論	2前	1			1					
	母子疾病治療論Ⅰ(小児)	2前	1								1
	小計(12科目)										

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
一般教育科目	安全学	3前		2							1
	教育学	1前		2							1
	統計学	2後		2							1
	情報科学	2前		2							1
	情報処理	3前		2							1
	物理学	1前		2							1
	生物学	1前	2								1
	人間工学	1後		2							1
	文化人類学	2前		2							1
	哲学	2前		2							1
	人間関係論	2後		2							1
	心理学	1後		2		1					
	家族心理学	2前		2							1
	生命倫理	1後	2								1
	倫理学	1前	2								1
	社会福祉学	1前		2							3
	ボランティア論	1通		2							1
	英語Ⅰ	1前・後	2								1
	英語Ⅱ	2前・後	2								1
	英語Ⅲ	2前・後		2							1
	英語Ⅳ	3前		2							1
	英会話	1前・後		2							1
	フレッシュャーズセミナーⅠ	1前	2								1
	フレッシュャーズセミナーⅡ	1前～後	2					1			4
	日本国憲法	1前		2							1
	体育	1前		2							1
	スポーツ医学Ⅰ	2前			2						4
	スポーツ医学Ⅱ	2前			2						5
	スポーツ社会経営学	4前			2						1
	コーチング論	3前			2						1
	競技者育成システム論	3後			1						1
	トレーニング科学Ⅰ	1前			2						1
	スポーツ栄養学Ⅰ	3前			1						1
	アスレティックトレーナーの役割	1前			2						1
小計(34科目)			-								
専門基礎科目	身体構造機能学Ⅰ	1通	2			1					
	身体構造機能学Ⅱ	1通	2			1					
	生化学	1後	1								1
	病態学総論	1後	1			1					
	疾病治療論Ⅰ(外科)	1後	1								3
	疾病治療論Ⅱ(整形・脳神経)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ(排泄・感覚・歯)	2前	1								4
	疾病治療論Ⅳ(呼吸・循環・血液)	1後	1			1					
	疾病治療論Ⅴ(腎臓・内分泌・消化)	2前	1			1					
	老年疾病治療論	2前	1			1					
	母子疾病治療論Ⅰ(小児)	2前	1								1
	小計(12科目)										

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	母子疾病治療論Ⅱ(周産期・女性疾患)	2前	1								2
	精神疾病治療論	2前	1			1					
	リハビリテーション医学治療学	2前	1								1
	微生物学	1後	1								1
	臨床栄養学	2前	1								2
	薬理学	1後	1								1
	多職種連携論	2後	1			1					
	チーム医療論	3前	1								1
	医療リスクマネジメント論	2後	1			1					
	ヘルスケアシステム論	2後	1					1			
	看護と法律	2前	1								1
	健康増進科学	1前	1								1
	健康増進科学演習	1後	1								1
	環境と健康	1前		1							1
	生涯発達心理学	2前		2				1			
	健康教育論	1後		1							1
	感染管理学	2前	1								1
	小計(28科目)	-									
専門科目	基礎看護学総論	1通	2					1			
	基礎看護学援助論Ⅰ(日常生活にかかわる技術)	1前	2					4			
	基礎看護学援助論Ⅱ(看護過程技術)	1後	2					4			
	基礎看護学援助論Ⅲ(診療にかかわる技術)	2前	2					4			
	フィジカルアセスメント	1後	2					4			
	看護管理・教育学概論	4後	1			1		1			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					4			
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					4			
	成人看護学総論	1後	1			1					
	急性期成人臨床看護学	2前	1			1					
	回復期成人臨床看護学	2前	1					1			
	慢性期成人臨床看護学	2後	1			1					
	終末期成人臨床看護学	2後	1			1					
	成人看護学演習	3前	2			1				1	
	救急看護論	3前	1			1					
	急性期成人看護学実習	3後・4前	2			1				1	
	回復期成人看護学実習	3後・4前	2					1			
	慢性期成人看護学実習	3後・4前	2			1				1	
	老年看護学総論	2後	1			1					
	老年臨床看護学	3前	1			1					
	老年看護学演習	3前	2			1	1				
	老年看護学実習Ⅰ	3後・4前	2				1				
	老年看護学実習Ⅱ	3後・4前	2			1				1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	母子疾病治療論Ⅱ(周産期・女性疾患)	2前	1								2
	精神疾病治療論	2前	1			1					
	リハビリテーション医学治療学	2前	1								1
	微生物学	1後	1								1
	臨床栄養学	2前	1								2
	薬理学	1後	1								1
	多職種連携論	2後	1				1				
	チーム医療論	3前	1								1
	医療リスクマネジメント論	2後	1					1			
	ヘルスケアシステム論	2後	1					1			
	看護と法律	2前	1								1
	健康増進科学	1前	1								1
	健康増進科学演習	1後	1								1
	環境と健康	1前		1							1
	生涯発達心理学	2前		2				1			
	健康教育論	1後		1							1
	感染管理学	2前	1								1
	小計(28科目)	-									
専門科目	基礎看護学総論	1通	2					1			
	基礎看護学援助論Ⅰ(日常生活にかかわる技術)	1前	2					4			2
	基礎看護学援助論Ⅱ(看護過程技術)	1後	2					4			2
	基礎看護学援助論Ⅲ(診療にかかわる技術)	2前	2					4			2
	フィジカルアセスメント	1後	2					4			2
	看護管理・教育学概論	4後	1			1		1			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					4			2
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					4			2
	成人看護学総論	1後	1			1					
	急性期成人臨床看護学	2前	1			1					
	回復期成人臨床看護学	2前	1					1			
	慢性期成人臨床看護学	2後	1			1					
	終末期成人臨床看護学	2後	1			1					
	成人看護学演習	3前	2				2	1		1	
	救急看護論	3前	1			1					
	急性期成人看護学実習	3後・4前	2			1				1	
	回復期成人看護学実習	3後・4前	2					1			
	慢性期成人看護学実習	3後・4前	2			1				1	
	老年看護学総論	2後	1			1					
	老年臨床看護学	3前	1			1					
	老年看護学演習	3前	2			1	1				
	老年看護学実習Ⅰ	3後・4前	2				1				
	老年看護学実習Ⅱ	3後・4前	2			1				1	

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	小児看護学総論	2後	1				1				
	小児臨床看護学	3前	1				1				
	小児看護学演習	3前	2				1				
	小児看護学実習	3後・4前	2				1			1	
	母性看護学総論	2後	1				1				
	母性臨床看護学	3前	1				1				
	母性看護学演習	3前	2				1	1			
	母性看護学実習	3後・4前	2				1	1			
	精神保健看護学 総論	2前	2				1				
	精神臨床看護学	3前	1				1				
	精神看護学演習	3前	1				1				
	精神看護学実習	3後・4前	2				1				
	広域看護学総論	2後	1				1				
	在宅看護学	3前	1				1				
	在宅看護学演習	3前	2				1		1		
	家族看護論	3前	1								1
	在宅看護学実習	3後・4選	2				1		1	1	
	リハビリテーション 看護論	3前	1					1			
	国際看護学	4後	1								1
	ヘルスアセスメント	3前	1			1					
	看護研究方法論	2後	1			2					
	看護研究	3後～4選	3			4	5	1			
	統合実習	4前	2			2	4	2		6	
	生活習慣病予防 論	3前		1		1					
	思春期健康論	2後		1			1				
	認知症看護援助 論	3前		1		1					
	リエゾン看護論	3前		1			1				
	災害看護学	4後		1		1					1
	組織とリーダー シップ学	4後		1				1			
小計(52科目)		-									

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	小児看護学総論	2後	1				1				
	小児臨床看護学	3前	1				1				
	小児看護学演習	3前	2				1				
	小児看護学実習	3後・4前	2				1			1	
	母性看護学総論	2後	1				1				
	母性臨床看護学	3前	1				1				
	母性看護学演習	3前	2				1	1		1	
	母性看護学実習	3後・4前	2				1	1		1	
	精神保健看護学 総論	2前	2				1				
	精神臨床看護学	3前	1				1				
	精神看護学演習	3前	1				1			1	
	精神看護学実習	3後・4前	2				1			1	
	広域看護学総論	2後	1				1				
	在宅看護学	3前	1				1				
	在宅看護学演習	3前	2				1		1		
	家族看護論	3前	1								1
	在宅看護学実習	3後・4選	2				1		1		
	リハビリテーション 看護論	3前	1					1			
	国際看護学	4後	1								1
	ヘルスアセスメント	3前	1			2	1	2			
	看護研究方法論	2後	1			2					
	看護研究	3後～4選	3			4	4	1			
	統合実習	4前	2			2	4	3		8	
	生活習慣病予防 論	3前		1		1					
	思春期健康論	2後		1			1				
	認知症看護援助 論	3前		1		1					
	リエゾン看護論	3前		1			1				
	災害看護学	4後		1		1					1
	組織とリーダー シップ学	4後		1				1			
小計(52科目)		-									

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
養 護 科 目	学校保健	2後			2			2	1		
	養護概説	1後			2			2	1		
	健康相談活動の 理論及び方法	3前			2			2	1		
	食品学	2前			1						1
	教職概論	1後			2	1					
	教育原理	1前			2	1					
	学校経営論	3前			2						1
	教育課程論	3前			2						1
	特別活動指導法	3前			2						1
	道徳教育の研究	3前			2						1
	教育方法論	2後			2						1
	生徒指導論	3前			2						1
	教育相談	3前			2						1
	養護実習	3後・4前			5			2	1		
	教職実践演習(養 護教諭)	4後			2	1		2			
小計(15科目)		-									
合計(129科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
看護師国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 27単位(必修27単位)											
専門科目 74単位(必修70単位、選択 4単位)											
合計 125単位(必修111単位、選択14単位)											
履修科目の登録上限 46単位(年間)											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
養 護 科 目	学校保健	2後			2						
	養護概説	1後			2				2		
	健康相談活動の 理論及び方法	3前			2				2		
	食品学	2前			1						1
	教職概論	1後			2	1					
	教育原理	1前			2	1					
	学校経営論	3前			2						1
	特別支援教育論	2後			2			1			
	教育課程論	3前			2						1
	特別活動及び総 合的な学習の時 間の指導法	3前			2						1
	道徳教育指導論	3前			2						1
	教育方法論	2後			2						1
	生徒指導論	3前			2						1
	教育相談	3前			2						1
	養護実習	3後・4前			5				2		
	教職実践演習(養 護教諭)	4後			2	1			2		
小計(16科目)		-									
合計(130科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
看護師国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 27単位(必修27単位)											
専門科目 74単位(必修70単位、選択 4単位)											
合計 125単位(必修111単位、選択14単位)											
履修科目の登録上限 46単位(年間)											

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
一般教育科目	安全学	3前		2							
	教育学	1前		2							1
	統計学	2後		2							1
	情報科学	2前		2							1
	情報処理	3前		2							1
	物理学	1前		2							1
	生物学	1前	2								1
	人間工学	1後		2							1
	文化人類学	2前		2							1
	哲学	2前		2							1
	人間関係論	2後		2							1
	心理学	1後		2		1					
	家族心理学	2前		2							1
	生命倫理	1後	2								1
	倫理学	1前	2								1
	社会福祉学	1前		2							3
	ボランティア論	1通		2							1
	英語Ⅰ	1前・後	2								1
	英語Ⅱ	2前・後	2								1
	英語Ⅲ	2前・後		2							1
	英語Ⅳ	3前		2							1
	英会話	1前・後		2							1
	フレッシュャーズセミナーⅠ	1前	2								1
	フレッシュャーズセミナーⅡ	1前・後	2					1			4
	日本国憲法	1前		2							1
	体育	1前		2							1
	スポーツ医学Ⅰ	2前			2						3
	スポーツ医学Ⅱ	2前			2						2
	スポーツ社会経営学	4前			2						1
	コーチング論	3前			2						1
	競技者育成システム論	3後			1						1
	トレーニング科学Ⅰ	1前			2						1
	スポーツ栄養学Ⅰ	3前			1						1
	アスレティックトレーナーの役割	1前			2						1
	小計(34科目)	-									
専門基礎科目	身体構造機能学Ⅰ	1通	2			1					
	身体構造機能学Ⅱ	1通	2			1					
	生化学	1後	1								1
	病態学総論	1後	1			1					
	疾病治療論Ⅰ(外科)	1後	1								3
	疾病治療論Ⅱ(整形・脳神経)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ(排泄・感覚・歯)	2前	1								4
	疾病治療論Ⅳ(呼吸・循環・血液)	1後	1			1					
	疾病治療論Ⅴ(腎臓・内分泌・消化)	2前	1			1					
	老年疾病治療論	2前	1			1					
	母子疾病治療論Ⅰ(小児)	2前	1								1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
一般教育科目	安全学	3前		2							1
	教育学	1前		2					1		
	統計学	2後		2							1
	情報科学	2前		2							1
	情報処理	3前		2							1
	物理学	1前		2							1
	生物学	1前	2								1
	人間工学	1後		2							1
	文化人類学	2前		2							1
	哲学	2前		2							1
	人間関係論	2後		2							1
	心理学	1後		2				1			
	家族心理学	2前		2							1
	生命倫理	1後	2								1
	倫理学	1前	2								1
	社会福祉学	1前		2							3
	ボランティア論	1通		2							1
	英語Ⅰ	1前・後	2								1
	英語Ⅱ	2前・後	2								1
	英語Ⅲ	2前・後		2							1
	英語Ⅳ	3前		2							1
	英会話	1前・後		2							1
	フレッシュャーズセミナーⅠ	1前	2								1
	フレッシュャーズセミナーⅡ	1前・後	2					1			4
	日本国憲法	1前		2							1
	体育	1前		2							1
	スポーツ医学Ⅰ	2前			2						3
	スポーツ医学Ⅱ	2前			2						2
	スポーツ社会経営学	4前			2						1
	コーチング論	3前			2						1
	競技者育成システム論	3後			1						1
	トレーニング科学Ⅰ	1前			2						1
	スポーツ栄養学Ⅰ	3前			1						1
	アスレティックトレーナーの役割	1前			2						1
	小計(34科目)	-									
専門基礎科目	身体構造機能学Ⅰ	1通	2					1			
	身体構造機能学Ⅱ	1通	2					1			
	生化学	1後	1								1
	病態学総論	1後	1					1			
	疾病治療論Ⅰ(外科)	1後	1								3
	疾病治療論Ⅱ(整形・脳神経)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ(排泄・感覚・歯)	2前	1								4
	疾病治療論Ⅳ(呼吸・循環・血液)	1後	1					1			
	疾病治療論Ⅴ(腎臓・内分泌・消化)	2前	1					1			
	老年疾病治療論	2前	1					1			
	母子疾病治療論Ⅰ(小児)	2前	1								1

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	母子疾病治療論Ⅱ(周産期・女性疾患)	2前	1								2
	精神疾病治療論	2前	1			1					
	リハビリテーション医学治療学	2前	1								1
	微生物学	1後	1								1
	臨床栄養学	2前	1								2
	薬理学	1後	1								1
	多職種連携論	2後	1			1					
	チーム医療論	3前	1								1
	医療リスクマネジメント論	2後	1			1					
	ヘルスケアシステム論	2後	1					1			
	看護と法律	2前	1								1
	健康増進科学	1前	1								1
	健康増進科学演習	1後	1								1
	環境と健康	1前		1							1
	生涯発達心理学	2前		2				1			
	健康教育論	1後		1							1
	感染管理学	2前	1								1
	小計(28科目)	-									
専門科目	基礎看護学総論	1通	2					1			
	基礎看護学援助論Ⅰ(日常生活にかかわる技術)	1前	2					4			
	基礎看護学援助論Ⅱ(看護過程技術)	1後	2					4			
	基礎看護学援助論Ⅲ(診療にかかわる技術)	2前	2					4			
	フィジカルアセスメント	1後	2					4			
	看護管理・教育学概論	4後	1			1		1			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					4			
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					4			
	成人看護学総論	1後	1			1					
	急性期成人臨床看護学	2前	1			1					
	回復期成人臨床看護学	2前	1					1			
	慢性期成人臨床看護学	2後	1			1					
	終末期成人臨床看護学	2後	1			1					
	成人看護学演習	3前	2			1				1	
	救急看護論	3前	1			1					
	急性期成人看護学実習	3後・4前	2			1				1	
	回復期成人看護学実習	3後・4前	2					1			
	慢性期成人看護学実習	3後・4前	2			1				1	
	老年看護学総論	2後	1			1					
	老年臨床看護学	3前	1			1					
	老年看護学演習	3前	2			1	1				
	老年看護学実習Ⅰ	3後・4前	2				1				
	老年看護学実習Ⅱ	3後・4前	2			1				1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	母子疾病治療論Ⅱ(周産期・女性疾患)	2前	1								2
	精神疾病治療論	2前	1			1					
	リハビリテーション医学治療学	2前	1								1
	微生物学	1後	1								1
	臨床栄養学	2前	1								2
	薬理学	1後	1								1
	多職種連携論	2後	1				1				
	チーム医療論	3前	1								1
	医療リスクマネジメント論	2後	1			1					
	ヘルスケアシステム論	2後	1					1			
	看護と法律	2前	1								1
	健康増進科学	1前	1								1
	健康増進科学演習	1後	1								1
	環境と健康	1前		1							1
	生涯発達心理学	2前		2				1			
	健康教育論	1後		1							1
	感染管理学	2前	1								1
	小計(28科目)	-									
専門科目	基礎看護学総論	1通	2					1			
	基礎看護学援助論Ⅰ(日常生活にかかわる技術)	1前	2					4			
	基礎看護学援助論Ⅱ(看護過程技術)	1後	2					4			
	基礎看護学援助論Ⅲ(診療にかかわる技術)	2前	2					4			
	フィジカルアセスメント	1後	2					4			
	看護管理・教育学概論	4後	1			1		1			
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					4			
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2					4			
	成人看護学総論	1後	1			1					
	急性期成人臨床看護学	2前	1			1					
	回復期成人臨床看護学	2前	1					1			
	慢性期成人臨床看護学	2後	1			1					
	終末期成人臨床看護学	2後	1			1					
	成人看護学演習	3前	2				2		1		
	救急看護論	3前	1			1					
	急性期成人看護学実習	3後・4前	2			1				1	
	回復期成人看護学実習	3後・4前	2					1			
	慢性期成人看護学実習	3後・4前	2			1				1	
	老年看護学総論	2後	1			1					
	老年臨床看護学	3前	1			1					
	老年看護学演習	3前	2			1	1				
	老年看護学実習Ⅰ	3後・4前	2				1				
	老年看護学実習Ⅱ	3後・4前	2			1				1	

【平成29年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	小児看護学総論	2後	1				1				
	小児臨床看護学	3前	1				1				
	小児看護学演習	3前	2				1				
	小児看護学実習	3後・4前	2				1			1	
	母性看護学総論	2後	1				1				
	母性臨床看護学	3前	1				1				
	母性看護学演習	3前	2				1	1			
	母性看護学実習	3後・4前	2				1	1			
	精神保健看護学 総論	2前	2				1				
	精神臨床看護学	3前	1				1				
	精神看護学演習	3前	1				1				
	精神看護学実習	3後・4前	2				1				
	広域看護学総論	2後	1				1				
	在宅看護学	3前	1				1				
	在宅看護学演習	3前	2				1		1		
	家族看護論	3前	1								1
	在宅看護学実習	3後・4選	2				1		1	1	
	リハビリテーション 看護論	3前	1					1			
	国際看護学	4後	1								1
	ヘルスアセスメント	3前	1			1					
	看護研究方法論	2後	1			2					
	看護研究	3後～4選	3			4	5	1			
	統合実習	4前	2			2	4	2		6	
	生活習慣病予防 論	3前		1		1					
	思春期健康論	2後		1			1				
	認知症看護援助 論	3前		1		1					
	リエゾン看護論	3前		1			1				
	災害看護学	4後		1		1					1
	組織とリーダー シップ学	4後		1				1			
小計(52科目)		-									

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	小児看護学総論	2後	1				1				
	小児臨床看護学	3前	1				1				
	小児看護学演習	3前	2				1				
	小児看護学実習	3後・4前	2				1			1	
	母性看護学総論	2後	1				1				
	母性臨床看護学	3前	1				1				
	母性看護学演習	3前	2				1	1			
	母性看護学実習	3後・4前	2				1	1			
	精神保健看護学 総論	2前	2				1				
	精神臨床看護学	3前	1				1				
	精神看護学演習	3前	1				1				
	精神看護学実習	3後・4前	2				1				
	広域看護学総論	2後	1				1				
	在宅看護学	3前	1				1				
	在宅看護学演習	3前	2				1		1		
	家族看護論	3前	1								1
	在宅看護学実習	3後・4選	2				1		1	1	
	リハビリテーション 看護論	3前	1					1			
	国際看護学	4後	1								1
	ヘルスアセスメント	3前	1			2	1	2			
	看護研究方法論	2後	1			2					
	看護研究	3後～4選	3			4	6	1			
	統合実習	4前	2			2	5	3		6	
	生活習慣病予防 論	3前		1		1					
	思春期健康論	2後		1			1				
	認知症看護援助 論	3前		1		1					
	リエゾン看護論	3前		1			1				
	災害看護学	4後		1		1					1
	組織とリーダー シップ学	4後		1				1			
小計(52科目)		-									

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
養護科目	学校保健	2後			2			2			
	養護概説	1後			2			2			
	健康相談活動の理論及び方法	3前			2			2			
	食品学	2前			1						1
	教職概論	1後			2	1					
	教育原理	1前			2	1					
	学校経営論	3前			2						1
	教育課程論	3前			2						1
	特別活動論	3前			2						1
	道徳教育指導論	3前			2						1
	教育方法論	2後			2						1
	生徒指導論	3前			2						1
	教育相談	3前			2						1
	養護実習	3後・4前			5			2			
	教職実践演習(養護教諭)	4後			2	1		2			
小計(15科目)		-									
合計(129科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
看護師国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 27単位(必修27単位)											
専門科目 74単位(必修70単位、選択4単位)											
合計 125単位(必修111単位、選択14単位)											
履修科目の登録上限 46単位(年間)											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
養護科目	学校保健	2後			2						
	養護概説	1後			2						
	健康相談活動の理論及び方法	3前			2						
	食品学	2前			1						1
	教職概論	1後			2	1					
	教育原理	1前			2	1					
	学校経営論	3前			2						1
	教育課程論	3前			2						1
	特別活動論	3前			2						1
	道徳教育指導論	3前			2						1
	教育方法論	2後			2						1
	生徒指導論	3前			2						1
	教育相談	3前			2						1
	養護実習	3後・4前			5				2		
	教職実践演習(養護教諭)	4後			2	1			2		
小計(15科目)		-									
合計(129科目)		-									
卒業要件及び履修方法											
看護師国家試験受験資格の取得											
一般教育科目 24単位(必修14単位、選択10単位)											
専門基礎科目 27単位(必修27単位)											
専門科目 74単位(必修70単位、選択4単位)											
合計 125単位(必修111単位、選択14単位)											
履修科目の登録上限 46単位(年間)											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・教職課程申請（教職員課）指導により、授業科目の名称を「特別活動指導法」から「特別活動論」に変更。
- ・教職課程申請（教職員課）指導により、授業科目の名称を「道德教育の研究」から「道德教育指導論」に変更。
- ・教職課程申請（教職員課）指導（教員審査）により、「学校保健」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・教職課程申請（教職員課）指導（教員審査）により、「養護概説」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・教職課程申請（教職員課）指導（教員審査）により、「健康相談活動の理論及び方法」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・教職課程申請（教職員課）指導（教員審査）により、「養護実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。

【平成30年度】

- ・兼任講師辞任の理由により、「教育学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・教育効果向上の理由により、「成人看護学演習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・教育効果向上の理由により、「ヘルスアセスメント」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」、「准教授0」から「准教授1」、「講師0」から「講師2」に変更。
- ・教育効果向上の理由により、「看護研究」の専任教員等の配置を「准教授5」から「准教授6」に変更。
- ・教育効果向上の理由により、「統合実習」の専任教員等の配置を「准教授4」から「准教授5」、「講師2」から「講師3」に変更。

【令和元年度】

- ・科目適合（審査済）の理由により、「スポーツ医学Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・科目適合（審査済）の理由により、「医療リスクマネジメント論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・担当教員辞任の理由により、「看護研究」の専任教員等の配置を「准教授6」から「准教授4」に変更。
- ・担当教員辞任の理由により、「統合実習」の専任教員等の配置を「准教授5」から「准教授4」に変更。
- ・教職課程再課程認定申請（教職員課）指導により、授業科目「特別支援教育論」を追加、専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・教職課程再課程認定申請（教職員課）指導により、授業科目の名称を「特別活動論」から「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
78 科目	28 科目	23 科目	129 科目	78 科目 [0]	28 科目 [0]	24 科目 [1]	130 科目 [1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	(該当なし)					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	(該当なし)					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(該当なし)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{129} = \boxed{1.55} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積：17011.00㎡ 借用期間：H11.1.1～ 40年間		
	校 舎 敷 地	5,642.21㎡	0㎡	0㎡	5,642.21㎡			
	運動場用地	4,082.27㎡	0㎡	0㎡	4,082.27㎡			
	小 計	9,724.48㎡	0㎡	0㎡	9,724.48㎡			
	そ の 他	9,919.96㎡	0㎡	0㎡	9,919.96㎡			
	合 計	19,644.44㎡	0㎡	0㎡	19,644.44㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		14,849.82㎡ (14,849.82㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	14,849.82㎡ (14,849.82㎡)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	部屋の間仕切りを一部 なくしたための減少 (29)	
		18室	16室 26室	25室	1室 (補助職員 1人)	0室 (補助職員 0人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		保健医療学部看護学科			13 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種 電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	保健医療学部	22,189〔411〕 (20,989〔411〕)	170〔40〕 (170〔40〕)	7〔7〕 (7〔7〕)	571 (571)	5591 (5,591)	122 (122)	
	計	22,189〔411〕 (20,989〔411〕)	170〔40〕 (170〔40〕)	7〔7〕 (7〔7〕)	571 (571)	5591 (5,591)	122 (122)	
(6) 図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		
		1016.54㎡		146席 104席		50,000冊		
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		1,140.00㎡		-				
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	250千円	250千円	図書購入費	15,700千円	17,000千円	17,000千円
		共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	2,000千円	2,000千円	2,000千円
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,100千円	850千円	850千円	850千円	一千円	一千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、雑収入					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	福井医療大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
保健医療学部										
リハビリテー ション学科	4	120	-	480	-	0.85	-	平成29年度	福井県福井市江上町55-13-1	
理学療法学専攻	4	50	-	200	学士 (理学療法学)	1.07	-	平成29年度	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	0.72	-	平成29年度	同上	
言語聴覚学専攻	4	30	-	120	学士 (言語聴覚学)	0.65	-	平成29年度	同上	
看護学科	4	60	-	240	学士 (看護学)	1.16	-	平成29年度	同上	
大 学 の 名 称	(該当なし)									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
(該当なし)	年	人	年次 人	人		倍				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) ー① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) ー② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
8 — (5)	6 — (4)	10 — (8)	2 — (0)	26 — (17)	8	5	10	1	24
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
8 [0]	5 [Δ1]	10 [0]	1 [Δ1]	24 [Δ2]	8 [0]	5 [Δ1]	10 [0]	1 [Δ1]	24 [Δ2]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、
 完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ー③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
60 歳	11 名	11 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、
 および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている
 教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入
 し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ー④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{24}{26} = \boxed{92.3} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ー⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{11}{24} = \boxed{45.83} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (28年)	・設置の趣旨・目的等 が生かされるよう、設 置計画を確実に履行す ること。また、開設時 から4年制大学にふさ わしい教育研究活動 を行うことはもとより、 その水準を一層向上さ せるよう努めること。	留意事項 設置計画は、設置認可時に 掲げた理念・目的・教育目 標を軸に、入学者選抜、教 育課程、学位授与の方針に 沿って実施している。 教育研究活動は、FD会議、 研究促進会議、地域保健教 育推進委員会主催のFD研修 会、授業評価アンケート、コン プライアンス研修、研究倫理研修、出 前講義を行う。(29)	履行済
認 可 時 (28年)	・今後、学生からの就 職相談に十分に対応で きえるよう、養護教諭の 需要の動向について更 に分析をし、学生への 適切な就職指導に万全 を期すること。(看護 学科)	留意事項 本学の学生は看護師の資格 を取得した上で、希望者は 養護教諭免許を取得する。 学校現場、特に特別支援学 校等においては、心のケア とともに医療的なケアが不 可欠で看護師資格と養護教 諭免許の両者が非常に重要 となる。採用試験受験者の 実態としては、現役で合格 する場合もあるが、多くは 講師として現場の経験を積 み重ねているケースがあ る。本学では、このような 状況を1年次より丁寧に学生 に示すとともに、毎年の採 用状況を踏まえ分析し、年 次に応じた就職支援を進め る。(29)	履行済
認 可 時 (28年)	・授業科目「健康増進 科学演習」の授業目標 について、教育課程の 体系性や授業内容を踏 まえつつ、適切に改め ること。(看護学科)	留意事項 教職員課(教職課程申請)の 指導により、開学以前に、 健康増進科学演習の授業目 標および授業内容につい て、ライフステージに応じ た健康政策を学ぶことがで きよう学修内容を修正す るとともに、易学的な視点 より考えることができるよ う、学科担当(非常勤講 師)が中心になり改め、開講 (1年次後期)する(29)	履行済

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (28年)	・完成年度前に、定年 規程に定める退職年齢 を超える専任教員数の 割合が高いことから、 定年規程の趣旨を踏ま えた適切な運用に努め るとともに、教員組織 編制の将来構想につい て着実に実施するこ と。(看護学科)	留意事項 高年齢の教員は、豊かな教育 経験と高度な知識と技能を 有しており、大学完成年度 に向けて、若手教員の教育 活動や研究活動への指導に は必要と考えている。その ためにも、開学後も若手教 員の増員に関して、専門分 野を考慮し段階整備し、高 度の知識と技能を若手教員 に研究活動を通じて教授し ていく。 同時に、高年齢の教員が担 当している科目に関して、 段階的に科目申請を行う。 (29)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (29年)	・保健医療学部看護学 科において、定年規程 に定める退職年齢を超 える専任教員数の割合 が高いことから、定年 規程の趣旨を踏まえた 適切な運用に努めると ともに、教員組織編制 の将来構想について検 討すること。	改善意見 高齢の教員は、高度の知識 と技能を有しており、大学 完成年度に向けて、若手教 員の研究、指導には必要と 考えている。平成29年4月開 学後に、若手教員の増員計 画のもと、30、40歳代の教 員4名の科目申請を行い、平 成30年4月には新たに助手を 2名配置した。引き続き、大 学完成年度に向けて、若手 教員の研究、指導を行い、 高齢の教員が担当している 科目に関して、段階的に科 目申請を行う。(30)	履行中
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	・定年規程に定める退 職年齢を超える専任教 員数の割合が高いこと から、定年規程の趣旨 を踏まえつつ適切な教 員組織の編制に努める こと。(保健医療学部 看護学科)	指摘事項 (改善) 開学2年目の平成30年5月に 定年規程60歳を超える教員 は18名中10名(55.55%)で あった。平成31年3月に1名 の高齢教員が退職し、平成 31年4月には7名が設置計画 に沿って増員となったこと で、平成31年5月の定年規程 60歳を超える教員は24名中 11名(45.83%)となった。 本学は定年が60歳となっ ているが、高年齢者雇用確保 措置に基づく継続雇用規程 があり、希望者については 65歳までの継続雇用とな る。 平成31年5月の継続雇用規程 65歳を超える教員は24名中4 名(16.66%)となる。	履行中 平成31年4月に助手を6名増 員した。開学5年目には若手 教員の指導を行っていた高 齢教員が5名退職予定であ る。また助手1名を開学5年 目に向けて助教にしていく ことで、令和3年5月には定 年規程60歳を超える教員は 20名中7名(35%)となり、そ の後も、引き続き上記の比 率低下に努めて行く。(元)

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。） と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
(該当なし)	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 FD会議 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 原則として、月1回開催、必要に応じ臨時開催 会議の開催は、委員の3分の2以上の出席を以て成立 c 委員会の審議事項等 (1)大学教育における教員の授業内容・方法の改善のための組織的な取組に関すること (2)教育業績評価及び授業評価に関すること (3)その他大学教育の改善についての必要な事項に関すること ② 実施状況 a 実施内容 ・FD研修会の開催 ・FD報告書の作成 b 実施方法 ・FD研修会・・・年2回 ・FD報告書・・・3年に1回 c 開催状況（教員の参加状況含む） ・FD研修会・・・平成30年度 計 4回 214名 d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 研修では過去に以下の講演を行っており、教員には様々な視点からアプローチした講演内容を授業に反映できるよう努力を求め、結果は授業評価アンケートで一般に公開している。 講演内容・・・テーマ：アクティブ・ラーニング 弘前医療福祉大学ST専攻の実践と本学における今後の展開ならびに課題 モチベーションを高めるチームの在り方～チーム医療を担う医療職育成のために～ 授業交流会 ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 毎年、授業科目の試験時期に実施 b 教員や学生への公開状況、方法等 学生に対する授業評価アンケート結果は授業科目担当教員に返し、HPに公開している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

- c 委員会の審議事項等

該当なし

- d その他

該当なし

② 審議状況

- a 審議した内容

該当なし

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

学校教育法第69条の3及び学校教育法施行令第40条の規定に準じ、且つ学校法人新田塚学園福井医療大学学則第3条の規定に基づき、学園及び本学の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために、自ら点検及び評価を行い、併せて第三者による評価を実施する「自己点検・評価委員会」を設置する。

委員会では大学の理念目的が、教育研究組織、教育内容・方法・成果、学生の受け入れ、学生支援、教育研究等環境、社会連携・社会貢献、管理運営・財務、内部質保証に反映されているか検証し、報告書を作成していく。

② 自己点検・評価報告書

・令和3年7月1日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和3年7月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和4年度に評価機関（未定）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 元年10月 1日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ー ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

福井医療大学F D会議規程

(目的)

第1条 福井医療大学（以下「本学」という。）教員の教育・研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、教授会の基に、FD（ファカルティ・ディベロップメント）会議（以下「会議」という。）を置く。

(組織)

第2条 会議は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) リハビリテーション学科 教員 3名
- (5) 看護学科 教員 1名
- (6) 事務員
- (7) 学長が指名した教職員

(任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 会議は学長がこれを招集し、その議長となる。

(会議)

第4条 会議は、原則として、月1回開催する。なお、必要に応じ臨時開催をすることができる。

- 2 会議の開催は、委員の3分の2以上の出席を以て成立するものとする。

(協議事項)

第5条 会議の協議事項は、次のとおりとする。

- (1) 大学教育における教員の授業内容・方法の改善のための組織的な取組に関すること。
- (2) 教育業績評価及び授業評価に関すること。
- (3) その他大学教育の改善についての必要な事項に関すること。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務課が担当し、連絡、議事録作成等を行う。

(報告)

第7条 委員会の活動については、教授会に議事録を添えて報告する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、運営会議の承認を得なければならない。

附 則

附則1 この規程は、平成29年4月1日より施行する。